

テーマ

施設に入所されているご利用者及び職員の口腔ケアの質を上げる

施設名 特別養護老人ホーム ケアポート板橋 ・ 部署 特養部門、看護部門
サークル名 BRUSH UP(ブラッシュアップ) ・ 発表者 介護職員 あいはら たいじ 相原 大路

1.はじめに

当施設は東京都板橋区に位置し、特別養護老人ホーム(100 床)、ショートステイ(20 床)計 120 床を有する複合施設である。「BRUSH UP」は特養と看護の中から選出された TQM 委員により構成

2.テーマ選定理由

理念

ケアポート板橋は、ご利用者の尊厳を大切にした質の高いチームケアを提供することで、その人らしい生活を支援し、地域の要となれる多機能施設を目指します

口腔ケアをする事は、誤嚥性肺炎を予防する等、高齢者の健康と密接に関係する事から最重要課題と考え、テーマ選定を行った。他職種との連携を強化する為、外部より歯科医師も加わった

【テーマ選定のマトリックス図】

項目の重みづけ		項目別評価点×1				項目別評価点×2				
テーマ やりたい事		の連携 他職種と	すさ 取組みや	さ 取りやす データの	緊急度	重要度	標・理念 部門目	繋がるか 向上に	顧客満足	総合点
口腔ケアの質向上		○	○	○	○	○	○	○		55
入浴の満足度向上		△	△	△	△	○	○	○		45
接遇を向上させる		×	×	×	○	○	○	○		43
残業を減らす		×	△	○	×	△	×	△		25

○5点
△3点
×1点

○5点
△3点
×1点

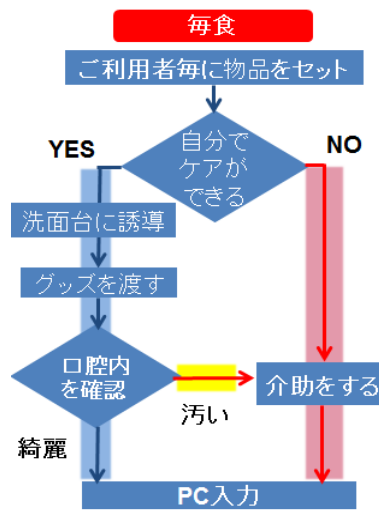
3.活動計画

計画 実施 →

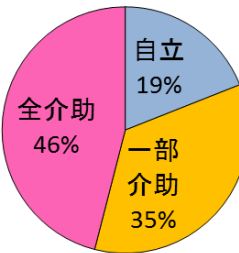
活動内容	担当者	H27.6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H27.1月
テーマの選定	千森	→							
現状把握	ピンキー	→	→						
目標設定	中根		→	→					
要因解析	中村			→	→				
対策立案	江口				→	→			
対策実施	中原					→	→	→	
効果確認	内藤					→	→	→	
歯止めと標準化	樋浦					→	→	→	
まとめ	隅田						→	→	

4.現状把握

【口腔ケア手順】



入所 100 名口腔ケア状況



約 8 割の
ご利用者に介助
を行っている

ケアポート板橋では、週2回訪問歯科による歯の治療、義歯の調整等を行っている。

歯科医師と連携し、ご利用者の口腔内清掃状況をⅠ（綺麗）からⅤ（とても汚い）の5段階で評価する独自の「口腔ケア評価表」を作成し、歯が正しく磨けているか数値化した

【口腔ケア評価表】

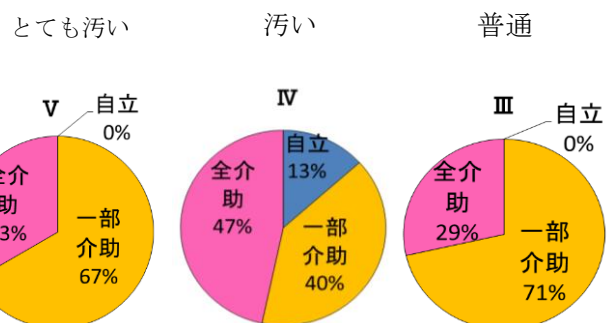
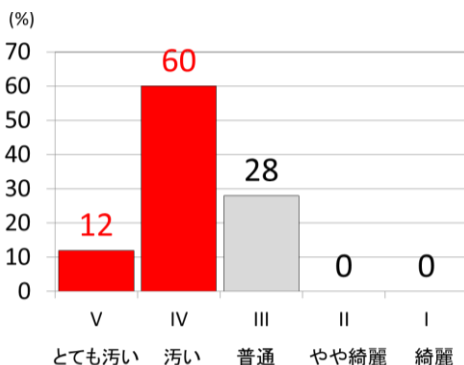
氏名		評価日	月1回評価	診療時間	:		
汚れている部位 ※当てはまる所にチェックをつけて下さい							
		歯の表面	歯の裏	上あご	口腔前庭	歯間	歯頸部
汚 れ の 原 因	食渣・歯垢	✓	✓			✓	✓
	痰汚れ						
	歯石						
舌汚れ なし 少量 中程度 多量 ↑チェックを							
特記 根だけ残っている部位、窪みに汚れが多いです							
Ⅰ（綺麗）・・・口腔内は清潔に保たれ、肉眼所見で歯垢や食物残渣はみられない Ⅱ（やや綺麗）・・・歯によっては歯垢の付着が残っているが、口腔内の清掃状況は良好 Ⅲ（普通）・・・食物残渣はほとんどみられず、概ね清潔に保たれている Ⅳ（汚い）・・・多くの歯に食物残渣がある Ⅴ（とても汚い）・・・口腔前庭部などにも食物残渣が多くみとめられる							
							点数 IV

評価者： 歯科医師

対象者： 平成 27 年 7 月 歯科診療を受けている
ご利用者全員 (25 名)

調査期間：月1回必ず評価を行い、どの日に誰を評価するかは
歯科医師が決める

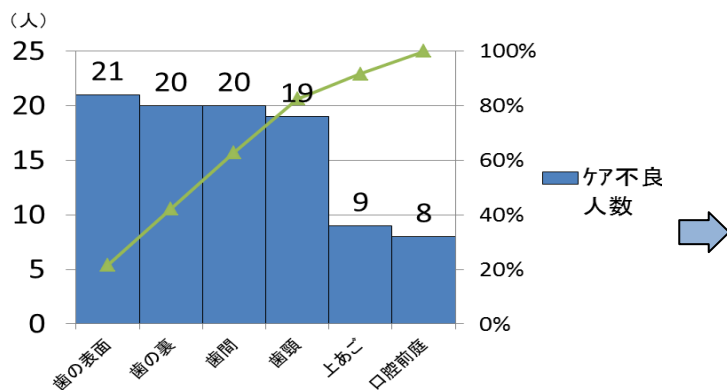
【口腔ケア評価表にて評価した結果 H26.7 歯科診療を受けた 25 名を対象】



V（とても汚い）・IV（汚い）と評価された人数が
合わせて 25 名中 72%であった

72%のうちわけを介助レベルごとに分析すると、
自立のご利用者の中にもIV（汚い）と
評価される方が 13%いる事が分かった

【汚れが溜まりやすい部位 H26.7 歯科診療を受けた 25 名を対象】

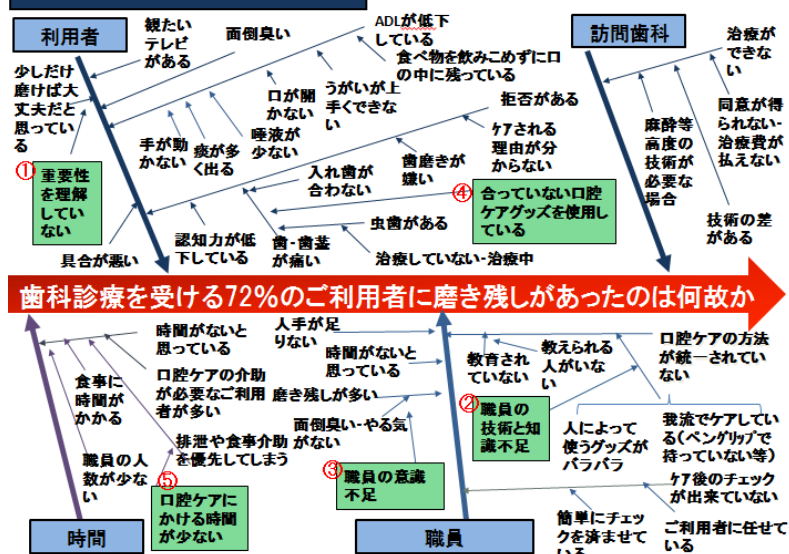


どの部分に磨き残しがあるか
調べた結果、歯の表面、続いて
歯の裏側の順で汚れている事が分かった

5.目標設定

何を	歯科医師による口腔ケア評価が【IV(汚い)・V(とても汚い)】であるご利用者の割合を
いつまでに	平成 26 年 12 月までに
どうする	72% → 0% にする

6.要因解析



重要要因

- ① ご利用者が口腔ケアの重要性を理解していない
- ② 職員の技術と知識不足
- ③ 職員の意識不足
- ④ 合っていない口腔ケアグッズを使用している
- ⑤ 口腔ケアに当てる時間が少ない

【重要要因検証】 5点の重要要因を検証した結果、①～④の重要要因が真の要因と判定した

重要要因	検証	結果		判定・分かった事
① ご利用者が口腔ケアの重要性を理解していない	【自立】のご利用者(19名)にアンケートを実施	毎食後口腔ケアを行っているか No 10% Yes 90% N=19	正しい磨き方・重要性を理解しているか No 58% Yes 42% N=19	判定:真の要因 毎食後口腔ケアをする習慣があっても、重要性や正しい磨き方を理解していないご利用者が58%であった為、真の要因であると判定

②	職員の 技術・知識 不足	中堅職員に 対し、抜き打 ちでテストを 行う	(人) 筆記テストの結果 平均 45 点/100 点 (最高 73 点・最低 26 点)		(人) 実技テストの結果 平均 60 点/100 点 (最高 100 点・最低 19 点)	判定:真の要因 特に知識の方が不足 している事が分かった また手順書なども無い 事が分かり、真の要因 と判定
		マニュアル の確認	現在口腔ケアマニュアルがない事が判明			
③	職員の意識 不足	口腔ケアを 重要視して いるか職員 (33 名)に アンケートを 実施	口腔ケアの重要性 を意識してきちんと 口腔ケアを行って いるか No 52% Yes 48% N=33	(No の職員のみ) なぜ行えていないと思うのか (人) 0 5 10	判定:真の要因 口腔ケアの重要性を 認識して介助にあたっ ている職員は半数以 下である事が判明。 他の介助を優先してし まっている現状であり、 真の要因と判定	
④	口腔ケア グッズが 合ってい ない	7 月に歯科 診療を受け た 25 名を 対象に 歯科医師が 確認をする	口腔ケアグッズ が適切か調査 適切でない 52% 適切 48% N=25	適切ではなかった理由 (人) 0 5 10	判定:真の要因 52%のご利用者が 物品の不足や、合っ ていないものを使用し ている事が判明し、 真の要因と判定	
⑤	口腔ケアに かける時間 が少ない	2 名の職員 がタイムを測 り、検証	口腔ケアに熟練している職員とそうでない職員がトロミ茶をつけた職員の歯を1分間全介助で磨き、磨き残しの違いを比べた(歯垢染色液を使用して、磨き残しがあるか調べた) 職員 A によるケア 職員 B によるケア		判定:真の要因でない 同じ時間でも磨き方 によっては綺麗に磨 ける事が分かる。時 間がないからできな いのは真の要因で はない	

7.対策の立案

10 点以上を採用とした為、対策案を全て採用した

歯科医師による口腔内評価がマ(汚い)以上であるご利用者の割合を 0%にする	重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	効果	コスト	時間	点数	採否
	ご利用者が口腔ケアの重要性を理解していない	重要性を理解し、自分で正しく磨ける	歯磨きのポイントが分かる	A 洗面台にイラストマニュアルを貼る	○	○	○	15	採
			正しい磨き方を習得	B(自立)ご利用者対象に勉強会を実施	○	△	△	11	採
	職員の技術・知識不足	技術・知識の向上	口腔ケアに熟知した介護士の育成	C 研修・試験を受け、口腔ケア推進士の資格をとる	○	△	△	11	採
			知識・技術を学ぶ	D 歯科医師による勉強会を実施	○	○	○	15	採
				E 歯科衛生士よりご利用者の口腔ケア実技指導を受ける	○	○	○	15	採
			ケアを統一	F マニュアルを作成	○	○	○	15	採
	職員の意識不足	職員の意識の向上	重要性が分かる	G 歯垢染色液にて磨き残しをチェックする	○	○	△	13	採
	口腔ケアのグッズが合っていない	適したグッズを使用する	必要な物品が分かる	H 歯科衛生士に必要な物品を聞く	○	○	△	13	採
			必要な物品を用意できる	I 口腔ケア一覧表の作成	○	○	○	15	採

(○5 点 △3 点 ×1 点)

8.対策の実施

	誰が	いつ	何を	どこで	どうする
① (A)	中村	8/31 迄	職員・ご利用者が理解できるようにイラストマニュアルを	食堂の洗面台に	貼る
② (B,D,G)	歯科医師	10 月	歯垢染色液を使って実技指導をしてもらう為	会議室	勉強会を開催する (職員・ご利用者対象)
③ (C)	TQM 委員	7 月	口腔ケア推進士の研修・資格	職業技能振興会	試験を受け、口腔ケア推進士の資格を取れるようにする
④ (F)	フロアリーダー	9/30 迄	口腔ケアマニュアルの作成	施設内	職員に共有できるようにする
⑤ (E,H)	フロア職員	月 1 回 入所時	歯科衛生士に口腔ケア方法や使用物品について	施設内	指導してもらう
			必要な物品を用意出来る	各フロア	歯科医師に聞く
⑥ (I)	TQM 委員	8/31 迄	口腔ケアグッズ一覧表の作成	各フロア	使用グッズを一覧で分かるようにする

【イラストマニュアルを作成し、洗面台に掲示】



歯磨きの重要性、正しい歯の磨き方を意識して頂くようにした

【口腔ケアグッズ一覧表の作成】

氏名		歯ブラシ種類							
		入れ歯洗浄ブラシ	歯ブラシ	ウルリナー	吸引ウルリナー	柔らかい歯ブラシ	一本ブラシ	舌ブラシ	モアブラシ
白さ						○			
	あり	○	○						
	あり	○	○						
	あり	○	○						

どのグッズを使用されているか一目で分かるようになった

【ご利用者、職員対象に勉強会の様子】

ご利用者対象 勉強会



歯垢染色液を使用して、正しい磨き方を学んだ

職員対象 勉強会



正しい歯磨き介助の方法や、重要性を周知した

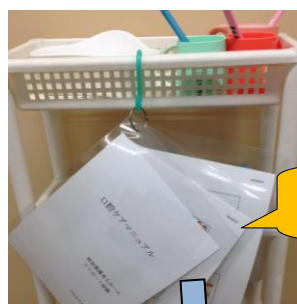


【口腔ケア推進士を2名の職員が取得 職員間で教え合える環境を作った】



※口腔ケアに関する知識を熟知し、合格するには、筆記試験にて 70 点/100 点以上合格する事が求められる。試験は年に2回あり
主催:財団法人 職業技能振興会

【口腔ケアマニュアルの作成】



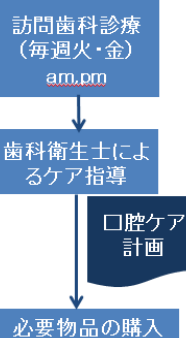
ケアの標準化を図った

【歯科衛生士による口腔ケア指導】



適切なグッズを用いて、個々に応じたケアの方法を学んだ

【業務フロー追加】



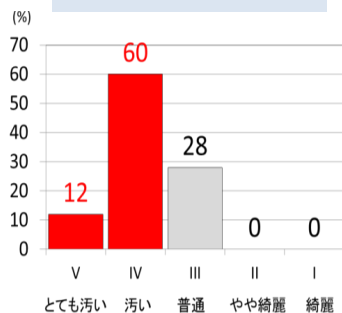
【適切なグッズを使用できるようになった】



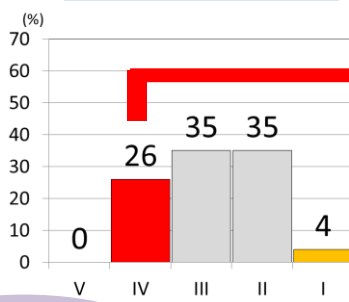
9 中間点検

【H26.11 口腔ケア評価表にて歯科医師が評価した結果】 V(とても汚い)・IV(汚い)は72%から26%に減った

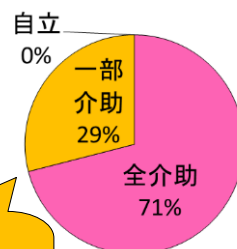
H26.7 25名評価



H26.11 26名評価



【IV(汚い) 26%の内訳】



目標達成率 64%

自立の方は
勉強会等の効果も
あり、0%になった

10.追加対策

(※現状把握・要因解析・対策立案を行っているが、省略する)

口を開いて頂けず、十分に介助ができない



開口グッズの使用

勉強会に参加できていない職員がいた(遅番・夜勤者)

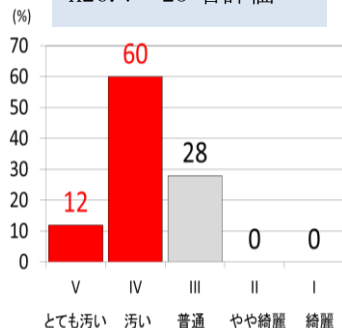


口腔ケア推進士が職員に直接指導をした

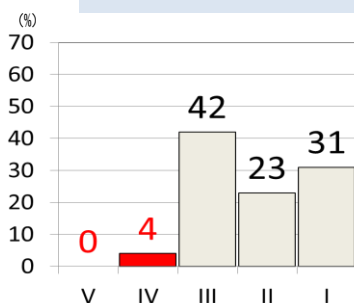
11.有形効果

【H26.12 口腔ケア評価表にて歯科医師が評価した結果】 V(とても汚い)・IV(汚い)は72%から4%に減った

H26.7 25名評価



H26.12 26名評価

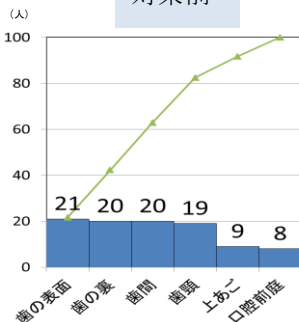


目標達成率 94%

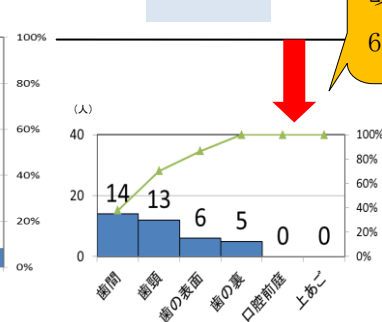
I(綺麗)と評価された方は
0%から31%に増えた

汚れ(食物残渣・歯垢・痰汚れ)が付着していると
指摘をうけた人数

対策前



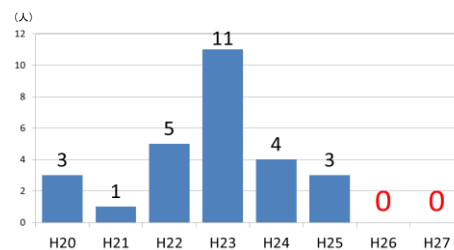
対策後



改善効果
62%

活動期間中 誤嚥性肺炎にかかった
ご利用者は0名

過去8年間 誤嚥性肺炎(疑い含む)と
診断された人数



12.無形効果

- ・職員・ご利用共に口腔ケアに対しての意識が高まった
- ・「食事が美味しく食べられるようになった」とご利用者に変化がみられた等

13.波及効果

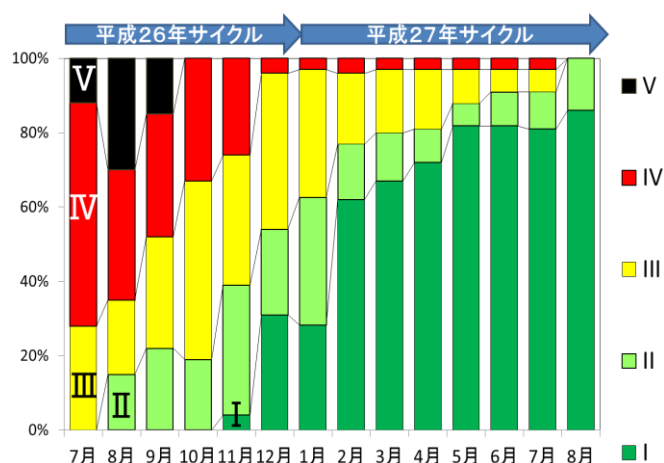
- ・ご利用者自身も正しく磨く方法を習得でき、自立支援につながった
- ・職員が資格を取得する等、スキルアップにつながった
- ・H26.10 オールジャパンケアコンテスト(介護の技術を競うコンテスト)口腔ケア部門で準優勝した
- ・活動を開始後、70%以上のご利用者が主食・副食共に常食を召し上がっており、現在も食事形態を維持できている

14.歯止めと定着化

定着率

対策を継続し、H27.8 にIV（汚い）0%を達成した
I（綺麗）が1月以降増えた

なぜ (目的)	何を (項目)	誰が (担当)	どこで (場所)	どのように (方法)	いつ (期間)
標準化	口腔ケア マニュアル	口腔ケア 委員	フロア	見直しをする	第4木 曜日
	口腔ケア グッズ一覧表	口腔ケア 委員	パントリー	更新する	変更 時
教育訓練	口腔ケア方法	歯科 衛生士	訪問診療 時	職員・ご利用者に 指導 (グッズの指導)	月1回
	知識・技術を 忘れない為に	歯科 医師	会議室	勉強会を開催	年1回
維持管理	グッズ	口腔ケア 委員	各フロア	交換	月1回
実施状況 のチェック	口腔ケア評価	歯科 医師	訪問診療 時	評価表を用いて チェックする	月1回
		口腔ケア 委員	会議室	評価表の振り返り を行う	月1回



15.反省と今後の課題

	手順	良かった点	悪かった点	今後の進め方
P	テーマの選定	看護や歯科医師と連携 を図れた	なし	方針にそって迅速に方向性を決める
	現状の把握と 目標の設定	きちんと磨けていない事が 数値化できた	何を目標にするのかを決め るまでに時間がかかった	今後も悪さ加減が分かる様にデータをと っていく
	活動計画作成	役割が明確になった	少し遅れ気味になった	今後もメンバーと連携を図り、進めていく
D	要因の解析	重要要因を一つ一つ検証 し、真の要因を追求できた	フローチャートを作成するの に時間がかかった	経験を活かしてより深く解析できるように する
C	対策の検討と 実施	ご利用者、職員に勉強会 が出来た	なし	歯科医師と連携をしながら、ケアの徹底 をしていく
	効果の確認	客観的指標によって評価 ができた	全ご利用者を対象に評価で きていなかった	歯科診療を受けている方以外のご利用 者も評価できるようにしていく
A	標準化と管理 の定着	口腔ケアの質が上がった マニュアルが出来た事によ り標準化できた	なし	今後もケアの質が維持できるように、 マニュアルの見直し等を行う

施設に入所されているご利用者及び 職員の口腔ケアの質を上げる

特別養護老人ホーム ケアポート板橋



サークル名： B R U S H U P

発表者： 相原大路（介護職員）

施設紹介



医療法人社団 健育会

社会福祉法人 不二健育会

特別養護老人ホーム ケアポート板橋

- 医療施設**
- 医療法人 健育会
 - 竹川病院
 - 熱川温泉病院
 - 西伊豆健育会病院
 - 石巻健育会病院
 - 石川島記念病院
 - 土肥クリニック
 - 医療法人 高成会
 - 花川病院
 - ふれあいクリニック
 - 医療法人社団 茅ヶ崎セントラルクリニック
 - 茅ヶ崎セントラルクリニック
 - 医療法人 常盤会
 - いわき湯本病院

- 介護施設**
- 医療法人 健育会
 - 介護老人保健施設 しおさい
 - ケアセンター けやき
 - 介護老人保健施設 しおん
 - ライフサポート ひなた
 - 医療法人 高成会
 - 介護老人保健施設 オアシス21
 - グループホーム 延齢草
 - 株式会社 ヘルスケアシステムズ
 - ライフケアガーデン熱川
 - ライフケアガーデン湘南
 - 社会福祉法人 不二健育会
 - ケアポート板橋
 - グループホーム かもめの家



関連施設

通所介護	■ 舟渡デイサービスセンター ■ 東坂下デイサービスセンター ■ かもめの家 共用型デイサービス
訪問介護	■ 舟渡ヘルパーステーション
居宅介護支援事業	■ 舟渡居宅介護支援事業所
地域包括支援センター	■ 舟渡おとしより相談センター
グループホーム	■ グループホーム かもめの家

施設理念



ケアポート板橋は、
ご利用者の尊厳を大切にした
質の高いチームケアを提供することで、
その人らしい生活を支援し、
地域の要となれる多機能施設を目指します。

過去のTQM活動内容

23年度 介護現場における腰への負担軽減

24～25年度 介護技術向上によるご利用者の重度化予防



サークルメンバー

サークル名

BRUSH UP (ブラッシュ アップ)

由来: 【brush】one's teeth → 歯を磨く
【brush up】 → 自分自身に磨きをかける



第9回 健育会グループTQM発表会にて最優秀賞を受賞

メンバー構成

特養と看護の中から
選出されたTQM委員
で構成
歯科医師も加わり
ました

テーマの選定

項目の重みづけ	項目別 評価点×1			項目別 評価点×2				
テーマ やりたい事	他職種との連携	取組みやすさ	データの取りやすさ	緊急度	重要度	部門目標	CS向上に繋がるか	総合点
口腔ケアの質向上	○	○	○	○	○	○	○	55
入浴の満足度向上	△	△	△	△	○	○	○	45
接遇を向上させる	×	×	×	○	○	○	○	43
残業を減らす	×	△	○	×	△	×	△	25

決定

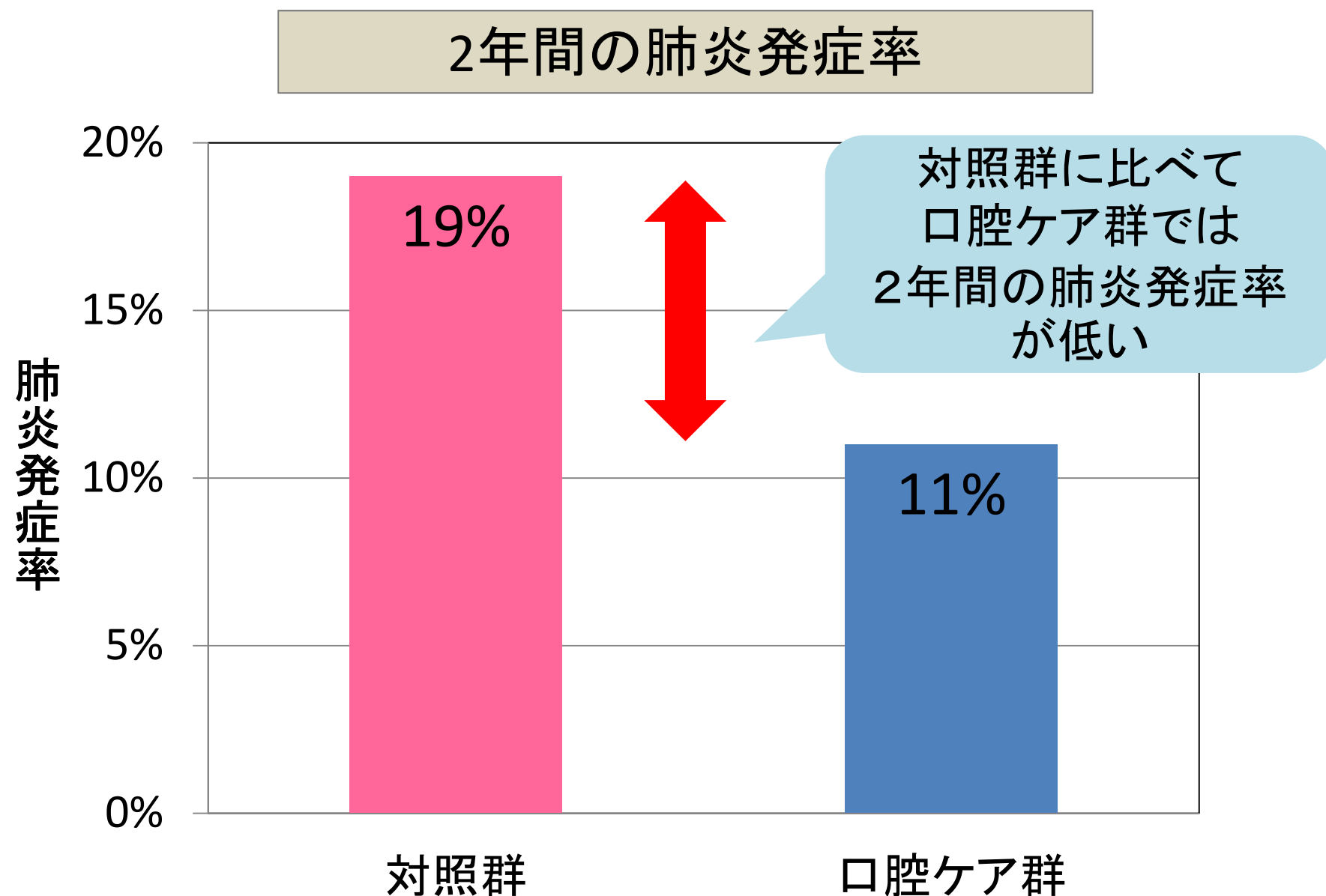
評価点

○5点

△3点

×1点

テーマの選定理由・背景 ①



出典 / 米山武義ら:介護高齢者に対する口腔衛生の誤嚥性肺炎予防効果に関する研究. 日本医学会誌, 2001.

テーマの選定理由・背景 ②

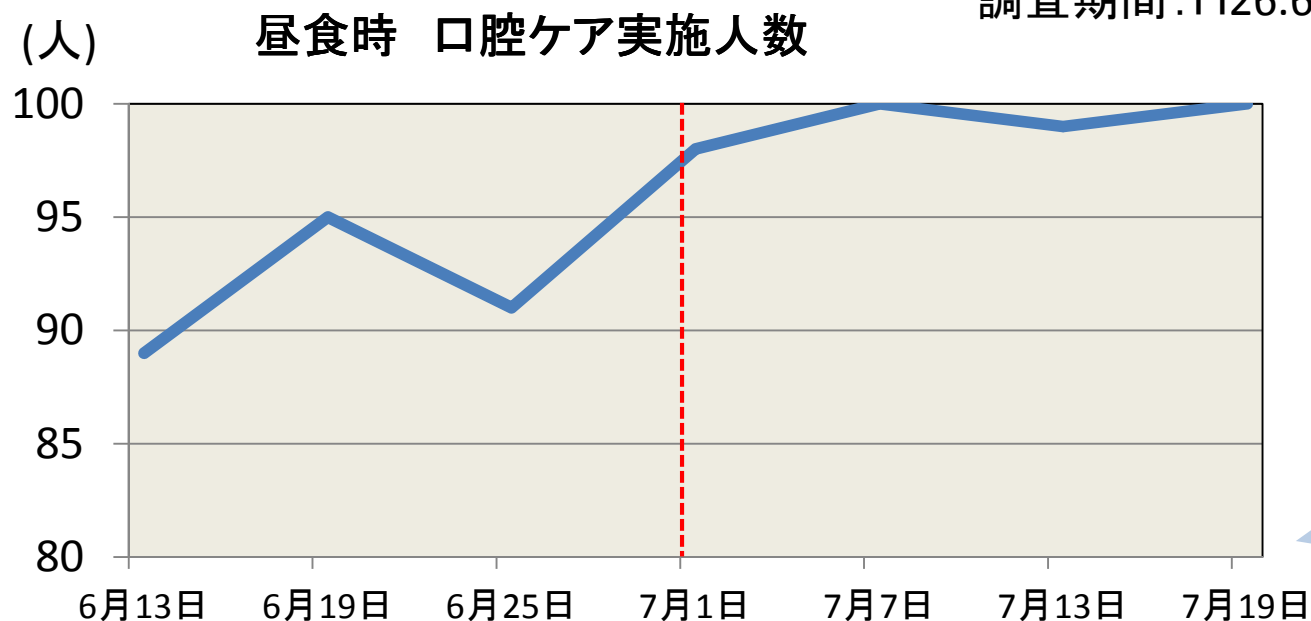


訪問歯科(2回/W)にてほぼ毎回きちんと磨けていない
と指摘を受けてしまっていた

口腔ケアに関する意識調査

調査対象者: 特養ご利用者 100名

調査期間: H26.6月～7月 ランダムで調査



全員に口腔ケアを
実施していなかった

口腔ケアがテーマと
なった7月からは
ほぼ全員実施している

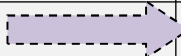
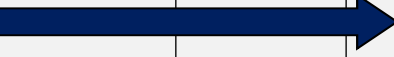
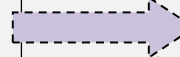
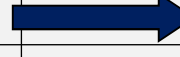
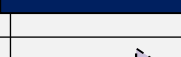
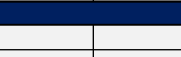
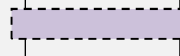
実施人数より意識は低かった事が分かる
口腔内が綺麗に保てるように口腔ケアを徹底させたいという思いから
このテーマを選定した

活動計画

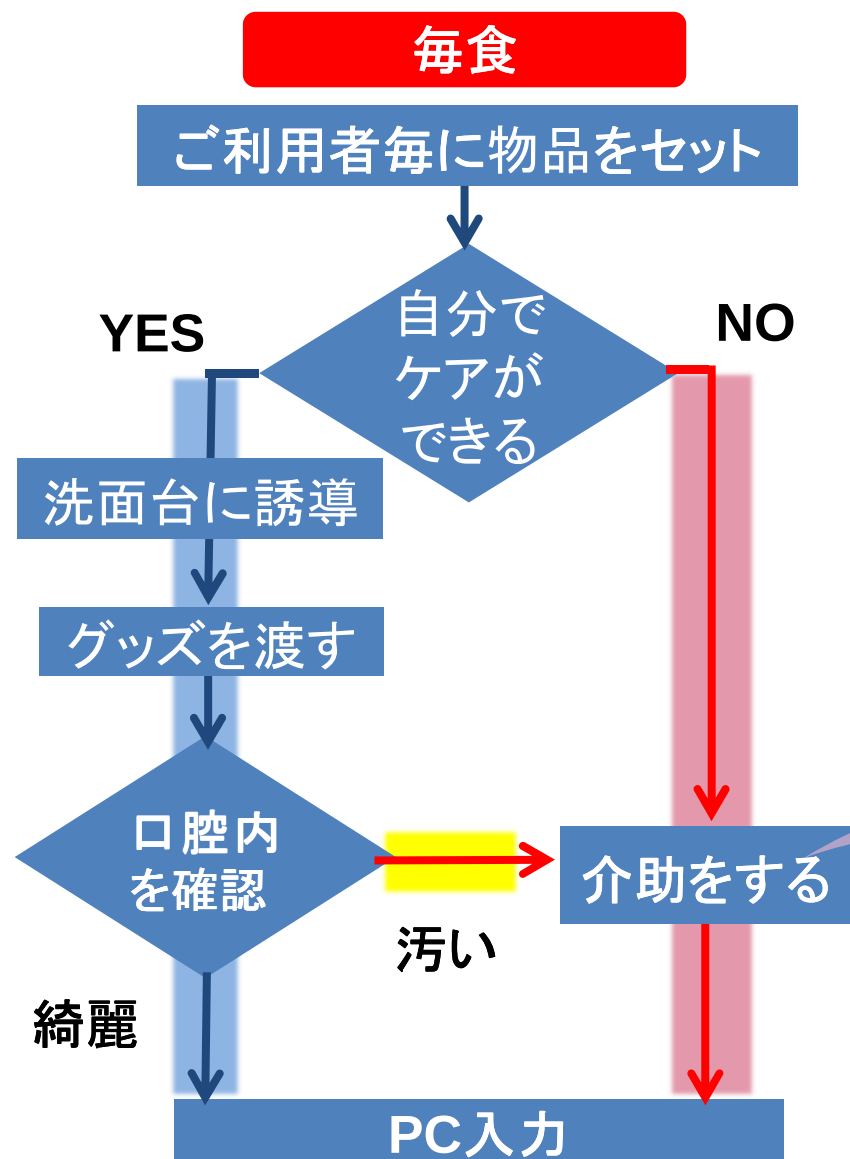
計画 

実施 



活動内容	担当者	H26 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H27 1月
テーマの 選定	千森	 							
現状把握	ピンキー	 							
目標設定	中根		 						
要因解析	中村			 					
対策立案	江口				 				
対策実施	中原					 			
効果確認	内藤					 			
歯止めと 標準化	樋浦					 			
まとめ	隅田						 		

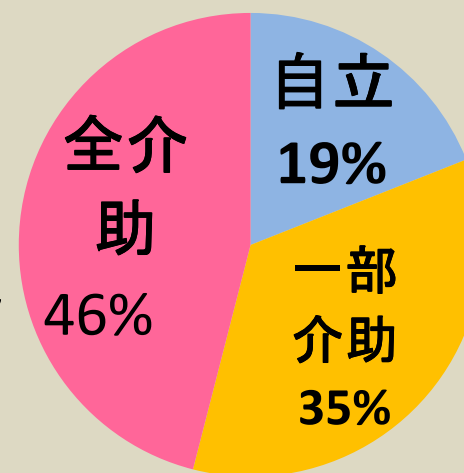
現状把握① 口腔ケア手順の確認



口腔ケアの様子



入所100名
口腔ケア状況



介助が必要な人の割合が多い

現状把握

歯科医師に評価を依頼する



口腔ケア評価表

歯科医師と相談
して書式を作成

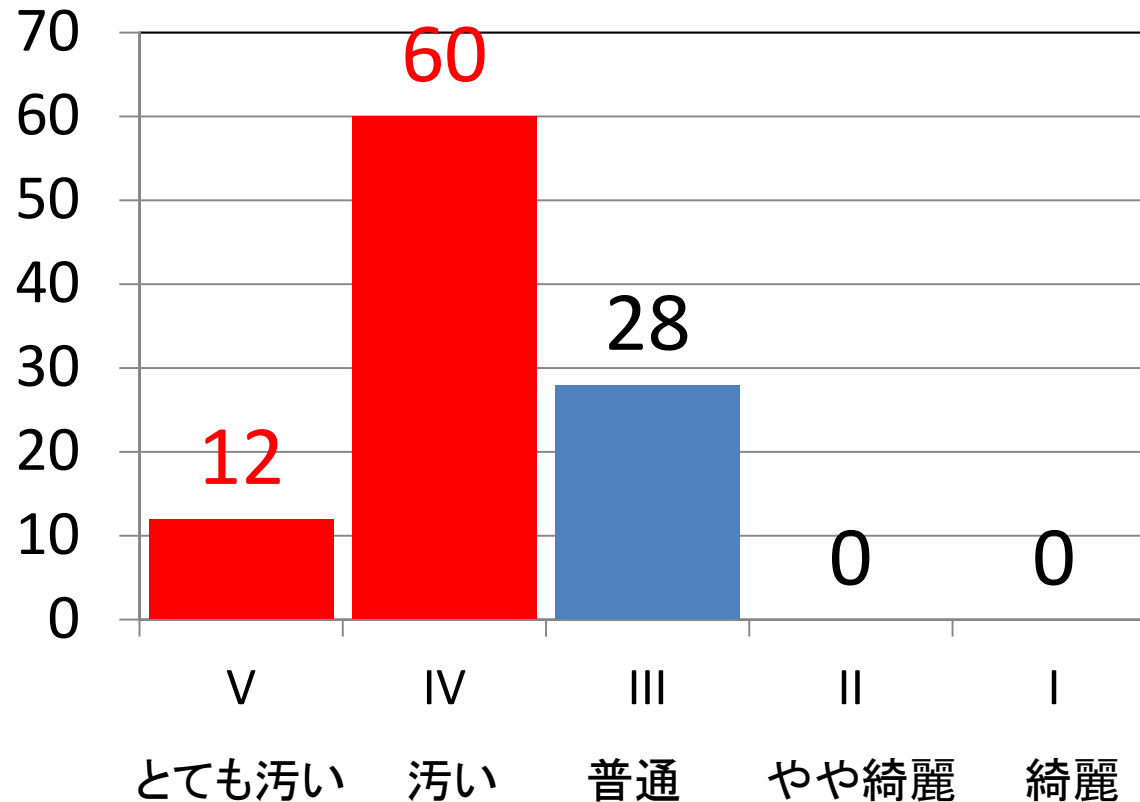
氏名		評価日		月 1 回評価		診療時間		:
		汚れている部位 ※当てはまる所にチェックをつけて下さい						
		歯の表面	歯の裏	上あご	口腔前庭	歯間	歯頸部	舌汚れ
汚 れ の 原 因	食渣・歯垢	✓	✓			✓	✓	なし
	痰汚れ							少量
	歯石							中程度
								多量
								↑チェックを
特記 根だけ残っている部位、窪みに汚れが多いです I (綺麗)・・・口腔内は清潔に保たれ、肉眼所見で歯垢や食物残渣はみられない II (やや綺麗)・・・歯によっては歯垢の付着が残っているが、口腔内の清掃状況は良好 III (普通)・・・食物残渣はほとんどみられず、概ね清潔に保たれている IV (汚い)・・・多くの歯に食物残渣がある V (とても汚い)・・・口腔前庭部などにも食物残渣が多くみとめられる								

診療を受けている
ご利用者を評価

I ~ V で評価
をつける

IV

(%) 歯科医師による口腔内評価(25名を対象)



分かった事

V (とても汚い)
IV (汚い)と評価された
人数が合わせて
25名中72%であった

H26.7

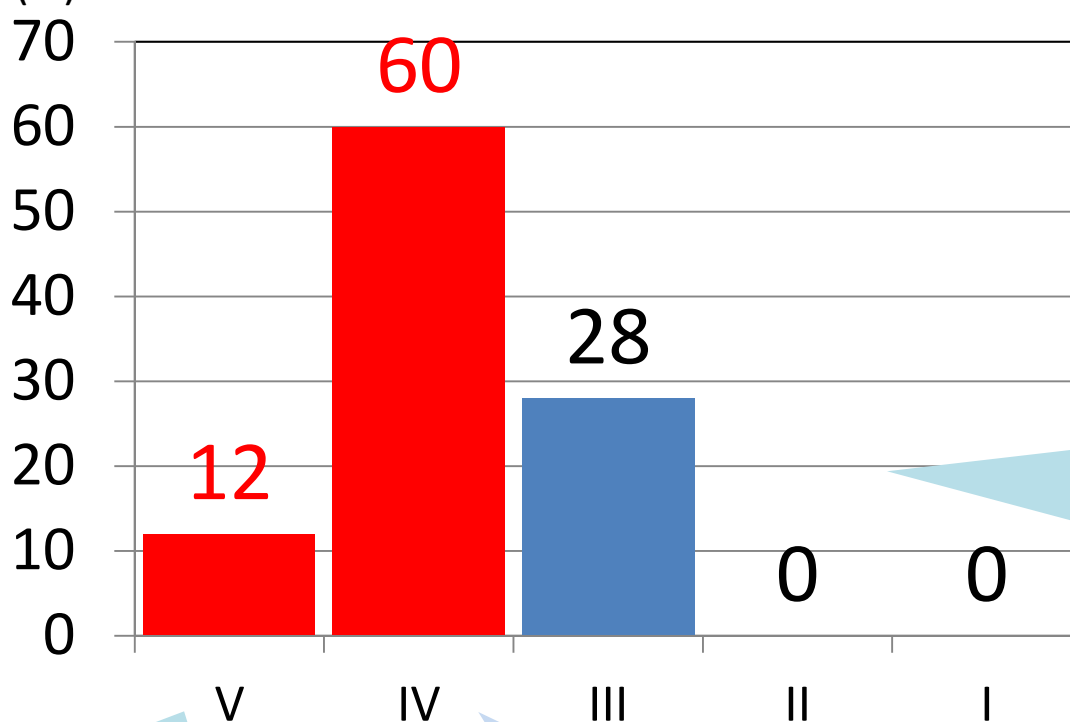
歯科診療を受けた
25名を対象

- I (綺麗)・・・口腔内は清潔に保たれ、肉眼所見で歯垢や食物残渣はみられない
- II (やや綺麗)・・・歯によっては歯垢の付着が残っているが、口腔内の清掃状況は良好
- III (普通)・・・食物残渣はほとんどみられず、概ね清潔に保たれている
- IV (汚い)・・・多くの歯に食物残渣がある
- V (とても汚い)・・・口腔前庭部などにも食物残渣が多くみとめられる

現状把握③ ADL調査 H26. 7

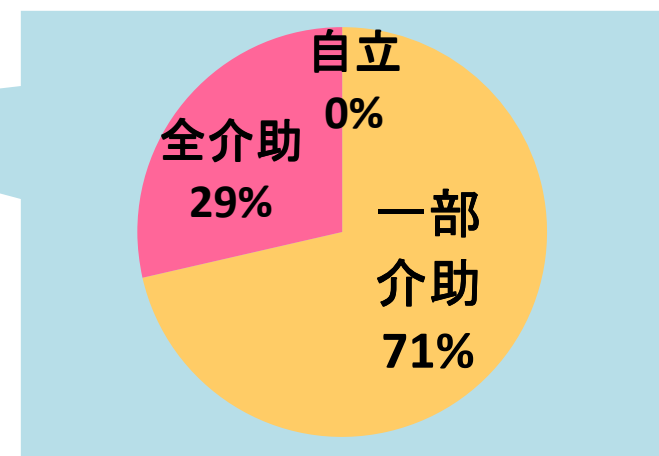
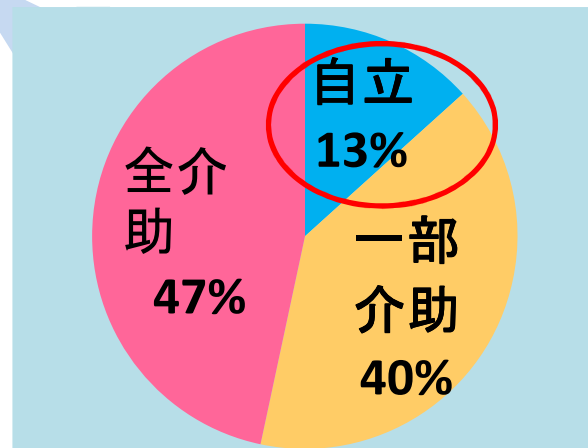
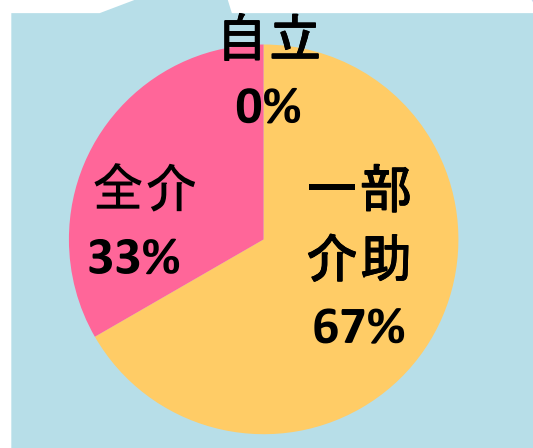


(%) 歯科医師による口腔内評価(25名を対象)



分かった事

IVに【自立】が
13%もいた

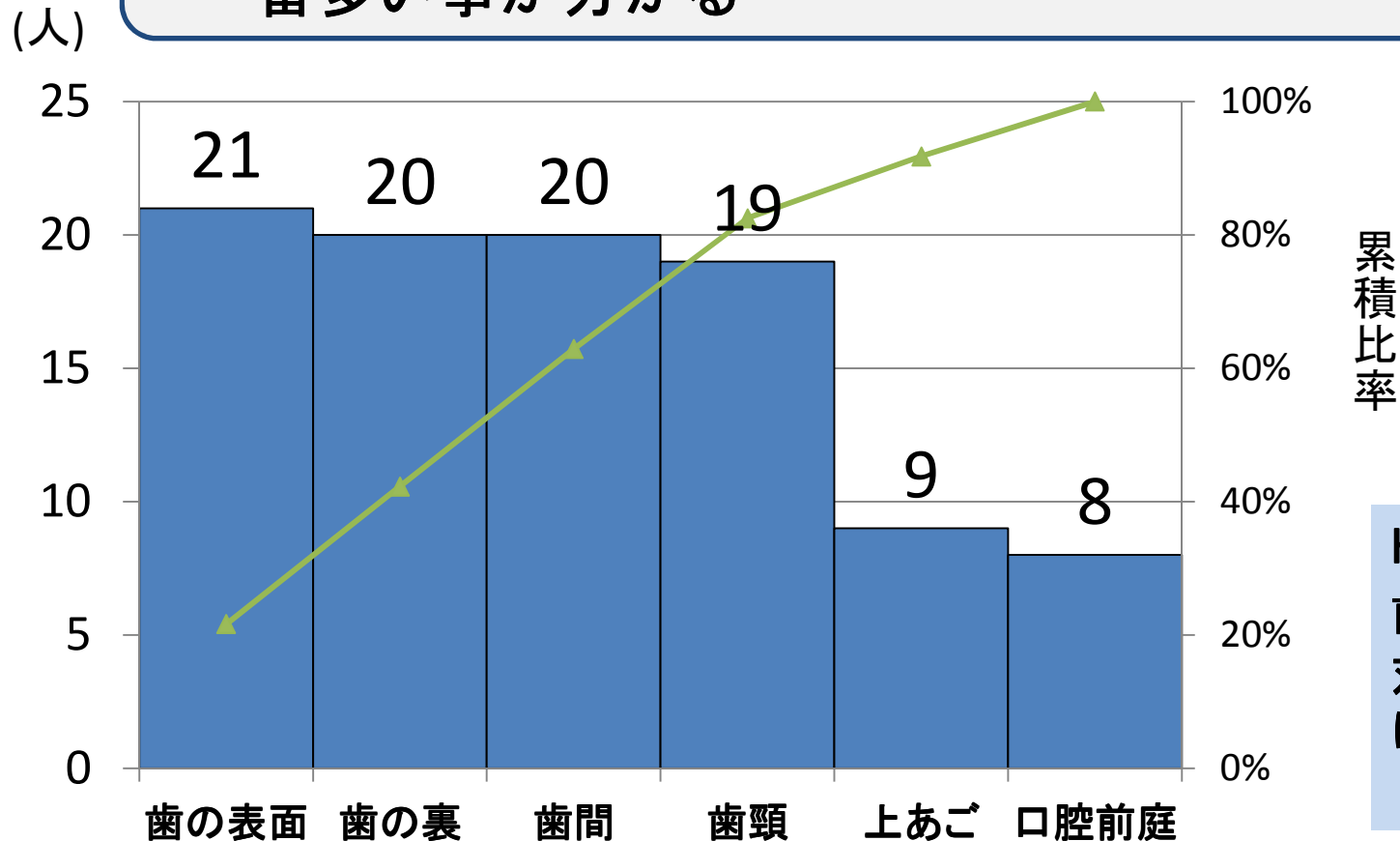


H26.7
歯科診療を受けた
25名が対象

現状把握④ 磨き残しがあると指摘された部位

汚れが溜まりやすい部位

歯の表面に磨き残しがあった人が25名中21名であり
一番多い事が分かる



H26.7
歯科医師が評価
対象者: 診療を受
けた25名

汚れ(食物残渣・歯垢・痰汚れ)が付着していると指摘を受けた人数
汚れが多く溜まりやすい部位別に集計

目標設定

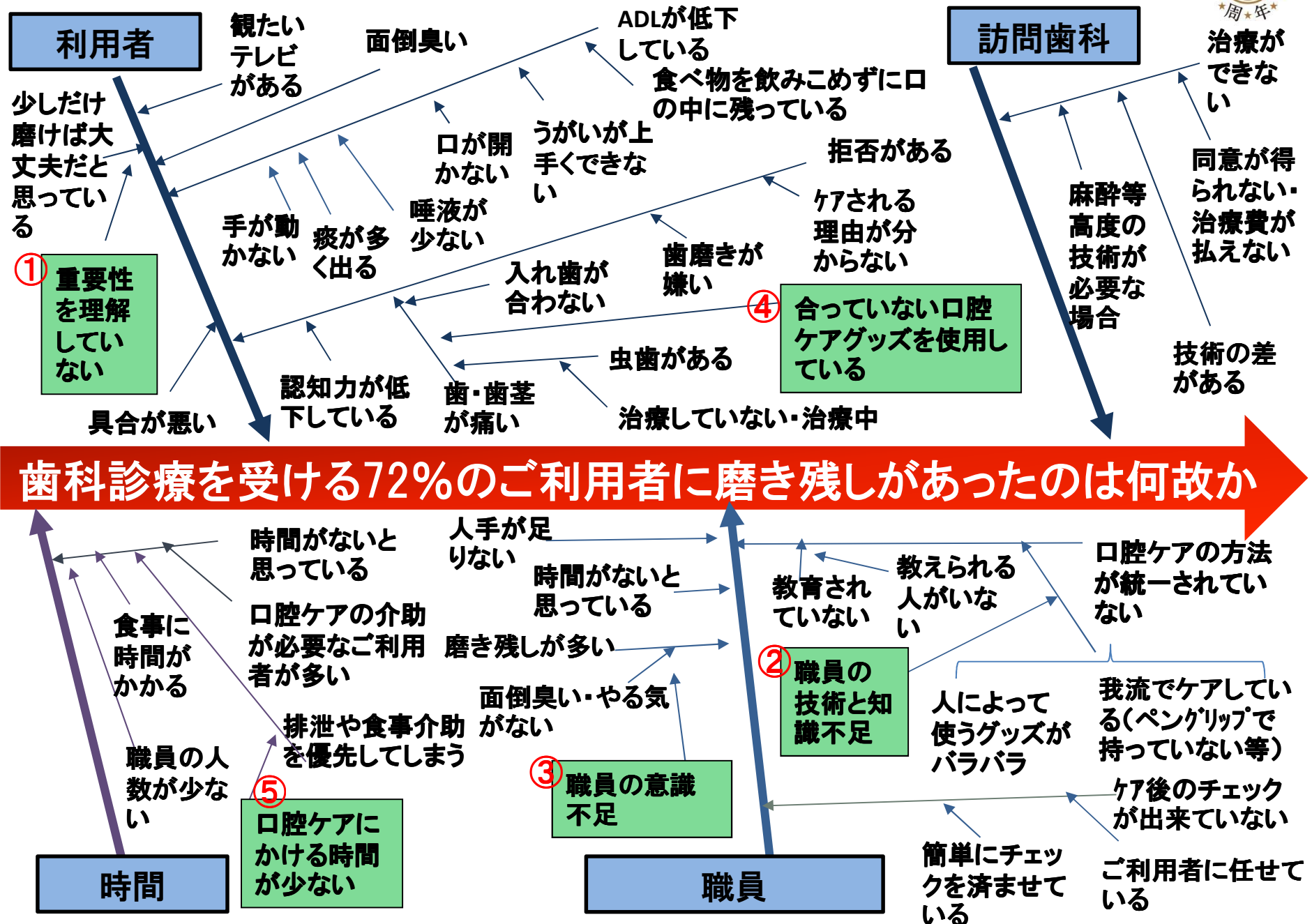


何を	歯科医師による口腔内評価が 【Ⅳ（汚い）・Ⅴ（とても汚い）】 であるご利用者の割合を
いつまでに	平成26年12月までに
どうする	72%⇒0%にする

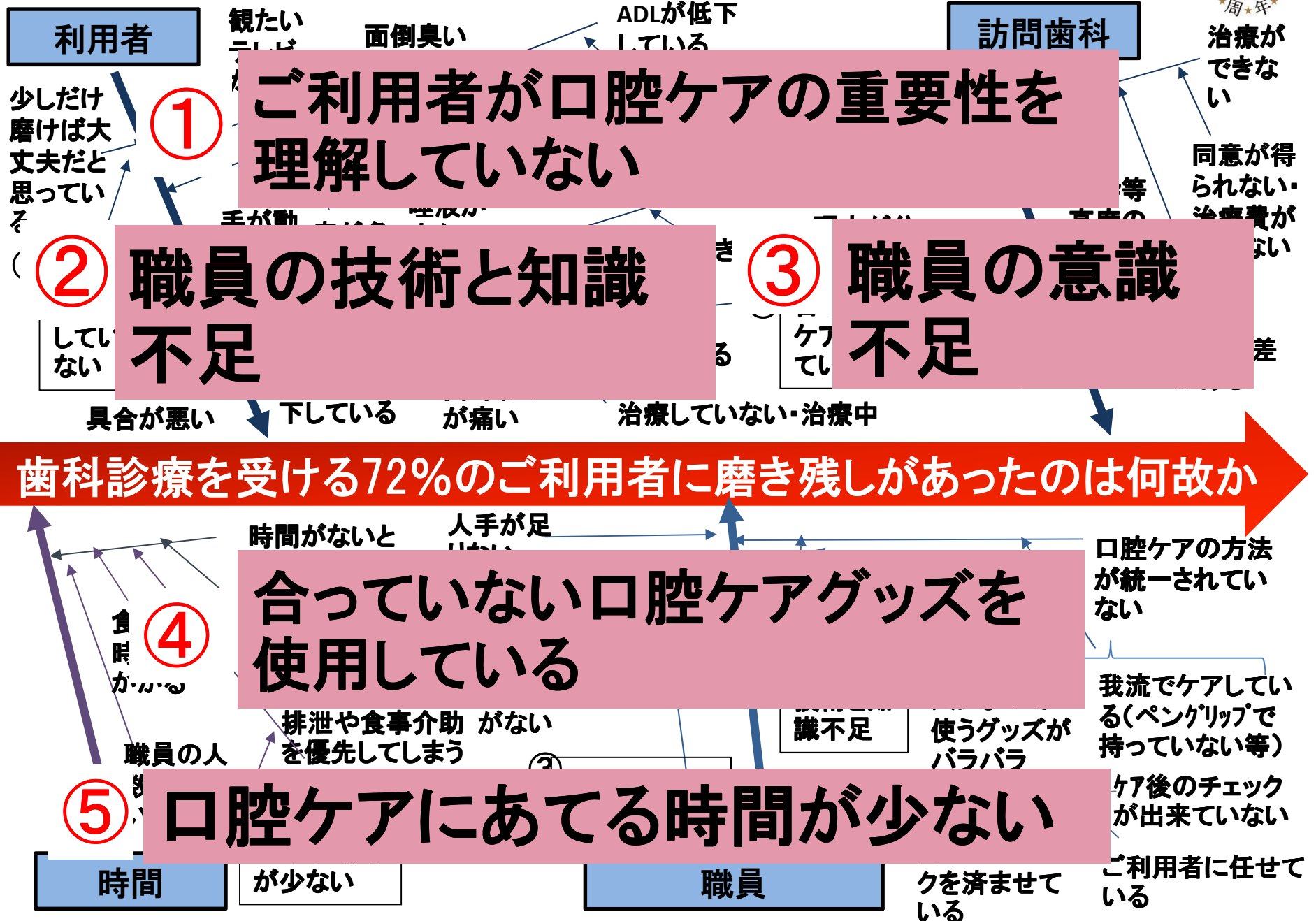
※下記の基準に従い、歯科診療を受けているご利用者の評価を依頼する（1回/月）

- Ⅰ（綺麗）・・・口腔内は清潔に保たれ、肉眼所見で歯垢や食物残渣はみられない
- Ⅱ（やや綺麗）・・・歯によっては歯垢の付着が残っているが、口腔内の清掃状況は良好
- Ⅲ（普通）・・・食物残渣はほとんどみられず、概ね清潔に保たれている
- Ⅳ（汚い）・・・多くの歯に食物残渣がある
- Ⅴ（とても汚い）・・・口腔前庭部などにも食物残渣が多くみとめられる

要因解析



要因解析

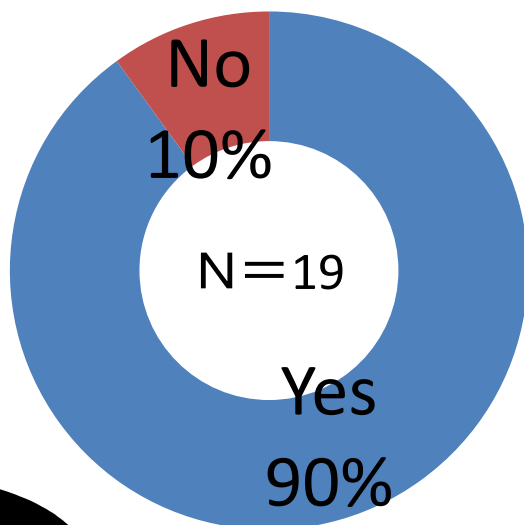


重要要因の検証 ①

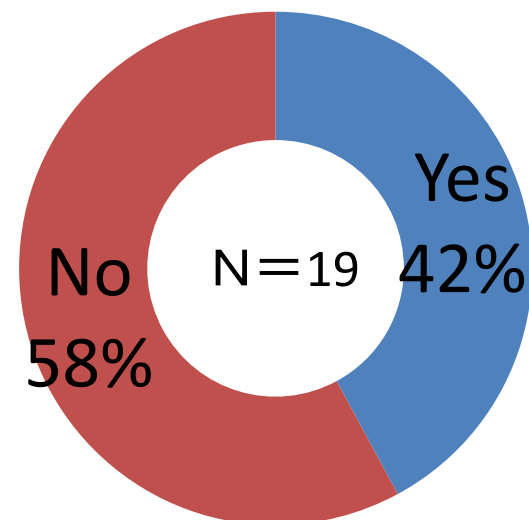


	重要要因	検証	判定
①	ご利用者が口腔ケアの重要性を理解していない	【自立】のご利用者(19名) アンケート実施	○

Q1: 毎食後口腔ケアをしているか？



Q2: 重要性を理解しているか？
正しい磨き方を知っているか？



結果・
分かった事

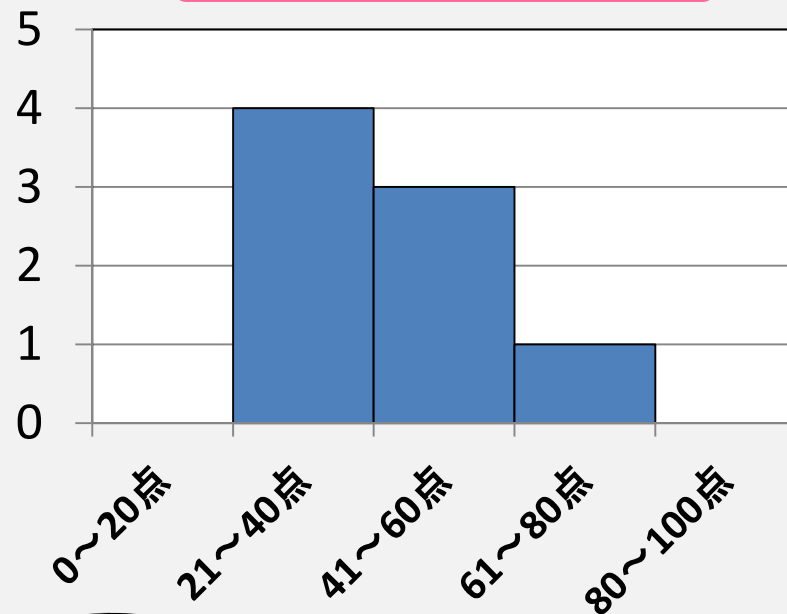
毎食後口腔ケアをする習慣があっても
重要性や正しい磨き方を理解していないご利用者が
58%であった為、真の要因であると判定

重要要因の検証 ②

	重要要因	検証	判定
②	職員の技術・知識不足	手順書等があるのか確認した所、無い事が判明 8名の中堅職員に対して、抜き打ちで 口腔ケアの筆記・実技テストを行った	○

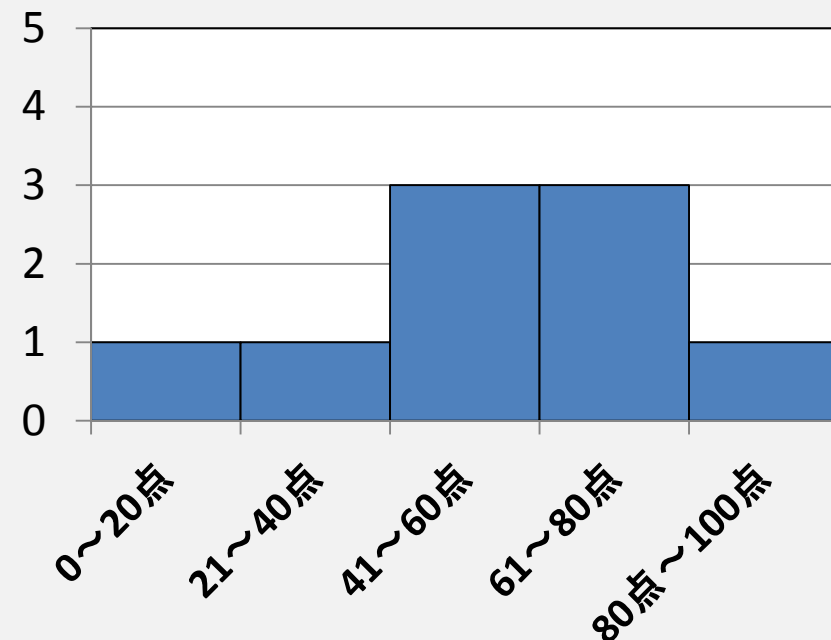
人数

筆記テストの結果



人数

実技テストの結果



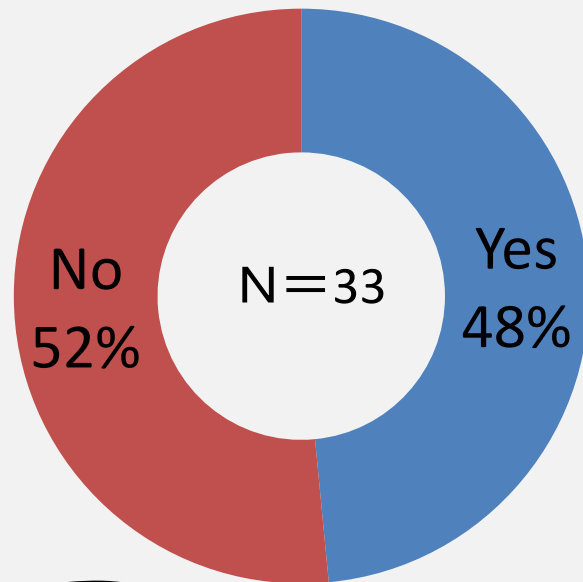
結果・
分かった事

平均点が筆記テスト46点、実技テスト60点とどちらも低い
特に知識の方が不足している事が分かった。真の要因と判定

重要要因の検証 ③

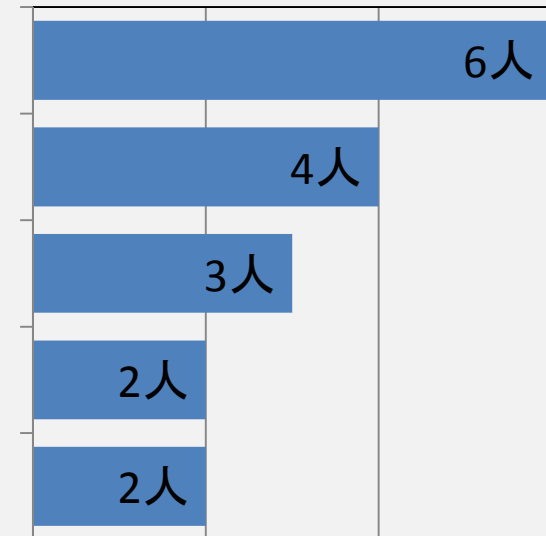
	重要要因	検証	判定
③	職員の意識不足	口腔ケアを重要視しているか 職員(33名)アンケート実施	○

Q1: 口腔ケアの重要性を意識して
きちんと口腔ケアを行っているか



Q2: (Noの職員のみ)
なぜ行えていないと思うのか？

排泄介助等の介助を優先して
しまう
口腔ケアが難しい方には、きち
んとできない
1人1人に合った口腔ケアがで
きていない
どこまでしたら正しく磨けたか
正解が分からない
適切な口腔ケア方法が分から
ない



結果・
分かった事

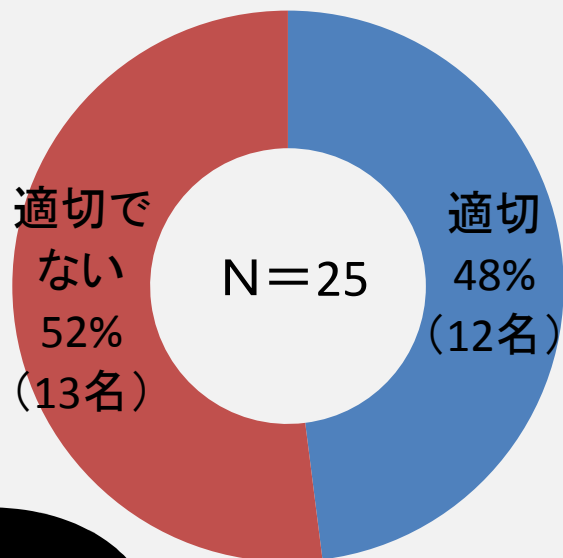
口腔ケアの重要性を認識して介助にあたっている職員は半数以下
他の介助を優先してしまっている現状であり、真の要因と判定

重要要因の検証 ④

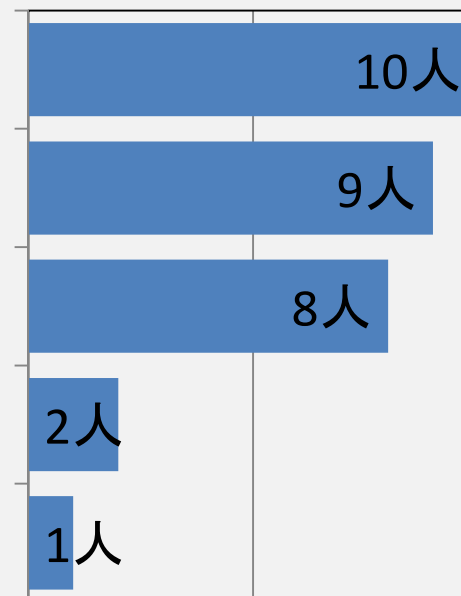
	重要要因	検証	結果・分かった事	判定
④	口腔ケアグッズが合っていない	歯科医師に確認をする	7月に歯科診療を受けた25名を対象に口腔ケアグッズが適切か調査を実施	○

適切な口腔ケアグッズを使用しているか調査

適切ではなかった理由



柔らかい毛先の歯ブラシを使用していない
 歯があるのに歯ブラシを使っていない
 義歯があるのに、義歯ブラシを使っていない
 1本ブラシが必要なのに使用していない
 くるりーなブラシが必要なのに、使用していない



結果・
分かった事

口腔ケアグッズの不足や、適切でないものを使用しているご利用者が52%であった為、真の要因と判定

重要要因の検証 ⑤

	重要要因	検証	判定
⑤	口腔ケアに かける時間 が少ない	【2名の職員がタイムを測り、検証】 口腔ケアに熟練している職員とそうでない職員が トロミ茶をつけた職員の歯を1分間 全介助で磨き、磨き残しの違いを比べた	×



職員Aによるケア



職員Bによるケア

赤い部分が
磨けていない所

結果・分かった事

同じ時間でも磨き方によっては綺麗に磨ける事が分かる
よって時間がないからできないという要因は
真の要因ではない

重要要因の検証まとめ

	重要要因	結果
①	ご利用者が口腔ケアの重要性を理解していない	○
②	職員の技術・知識不足	○
③	職員の意識が不足している	○
④	口腔ケアグッズが合っていない	○
⑤	口腔ケアにかかる時間が少ない	×

対策の立案

○5点 △3点 ×1点



ご利用者 の割合を0%にする	歯科医師による口腔内評価がⅣ（汚い）以上である	重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	効果	コスト	時間	採否
		ご利用者が口腔ケアの重要性を理解していない	重要性を理解し、自分で正しく磨ける	歯磨きのポイントが分かる	A 洗面台にイラストマニュアルを貼る	○	○	○	15
				正しい磨き方を習得	B（自立）ご利用者対象に勉強会を実施	○	△	△	11
		職員の技術・知識不足	知識・技術の向上	口腔ケアに熟知した介護士の育成	C 研修・試験を受け口腔ケア推進士の資格をとる	○	△	△	11
				知識・技術を学ぶ	D 歯科医による勉強会を実施	○	○	○	15
					E 歯科衛生士よりご利用者の口腔ケア実技指導を受ける	○	○	○	15
				ケアの統一	F マニュアルを作成	○	○	○	15
		職員の意識不足	職員の意識の向上	重要性が分かる	G 歯垢染色液にて磨き残しをチェックする	○	○	△	13
		口腔ケアのグッズが合っていない	適したグッズを使用する	必要な物品が分かる	H 歯医者に必要な物品を聞く	○	○	△	13
				誰でも必要な物品を用意できる	I 口腔ケア一覧表の作成	○	○	○	15

対策の実施



	誰が	いつ	何を	どこで	どうする
① (A)	中村 CW	9月 初旬	職員・ご利用者が理解できるように、 イラストマニュアルを	食堂の 洗面台に	貼る
② (B,D,G)	歯科 医師	10月中	歯垢染色液を使って実技 指導をしてもらう為	会議室	勉強会を開催する (職員・ご利用者 対象)
③ (C)	TQM 委員	7月	口腔ケア推進士の研修・ 資格	職業技能 振興会	試験を受け、 口腔ケア推進士の 資格を取れるように する
④ (F)	フロア リーダー	9/31迄	口腔ケアマニュアル作成	施設内	職員に共有できるように する
⑤ (E,H)	フロア 職員	月1回 入所時	歯科衛生士に口腔ケア方 法や使用物品について	施設内	指導をしてもらう
		火・金	必要な物品を準備できる	各フロア	歯科医師に聞く
⑥ (I)	TQM・ 口腔ケア 委員	9月 初旬	口腔ケアグッズ一覧表の 作成	各フロア	何のグッズを使用して いるか分かるように する

対策実施① イラストマニュアル



対策後

洗面所に貼る事で
正しく磨けるようになった

・歯磨きを行うと・

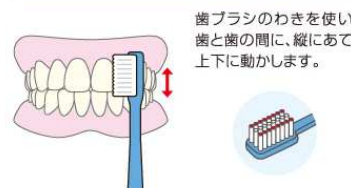


- ①虫歯や歯周病の予防が出来る。
- ②誤嚥性肺炎の予防が出来る。
- ③口の中がきれいになる。
- ④食欲が出てくる。
- ⑤消化能力が向上する。
- ⑥手先や舌のリハビリになる。

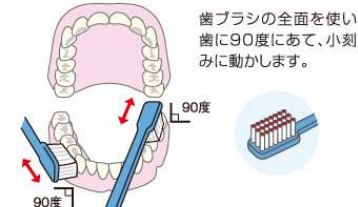
このような効果があります。
しっかり歯磨きを行いましょう。

歯の磨き方

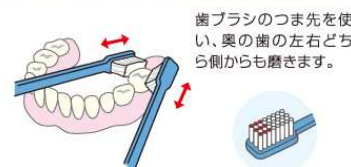
● 歯と歯の間



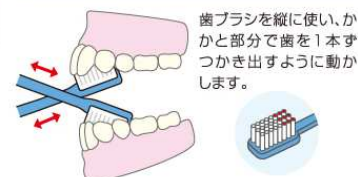
● 歯と歯ぐきの境目・奥歯の噛み合わせ



● 一番奥の歯のうしろ



● 前歯の裏側



対策実施②-1 勉強会（ご利用者）

対策後

これからはしっかり磨きますとの声が聞かれた



歯垢染色液
で汚れを
チェック



赤い部分が
磨けていない
所です



赤色が無くなる
まで磨く



義歯はどう
磨くの？

対策実施②-2 勉強会（職員）

対策後

口腔ケアの重要さと実技を学ぶ事で、周知できた



2人1組になって
磨き合いをした



ブラッシングに
ついて指導

対策実施③ 口腔ケア推進士



対策後

「口腔ケア推進士」を取得
知識を熟知し、人に教える事ができるようになった

資格「口腔ケア推進士」



「口腔ケア推進士」とは 主催:財団法人 職業技能振興会

口腔ケアに関する知識を熟知し、合格するには、筆記試験にて 70点/100点以上合格する事が求められる。試験は年に2回あり。

対策実施④ 口腔ケアマニュアル作成

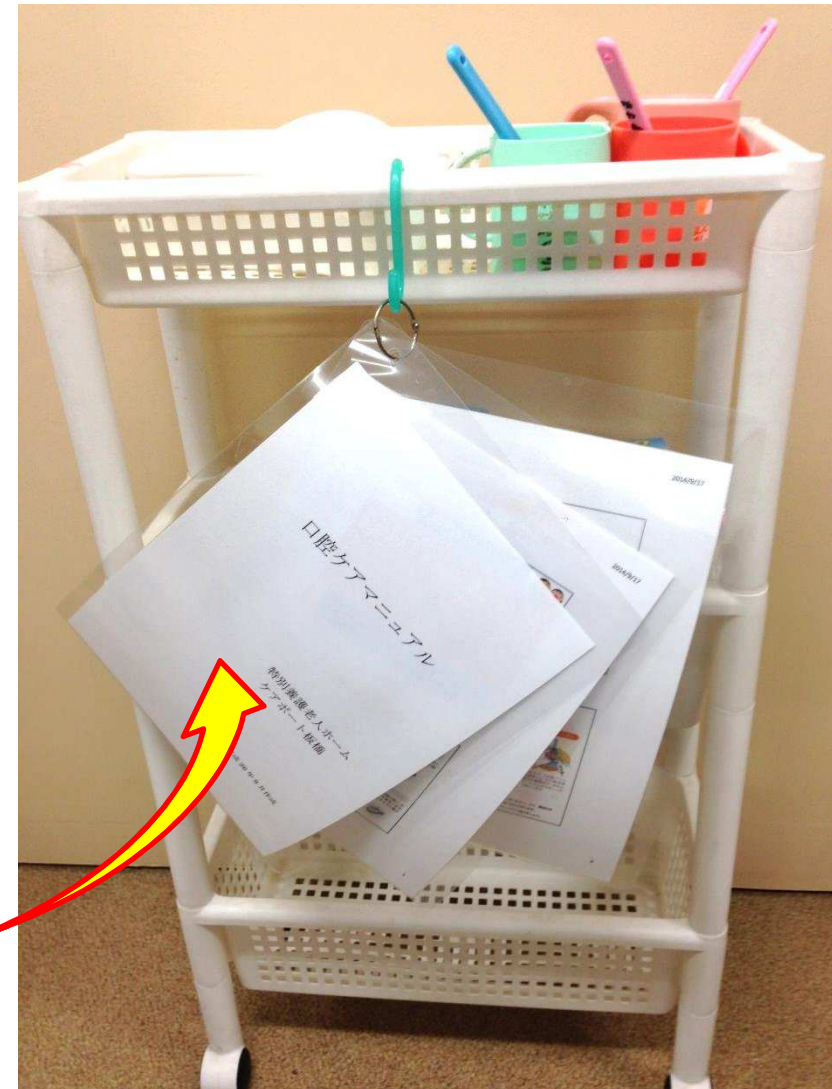
対策後

いつでもマニュアルを確認できるようになった



口腔ケアマニュアル

特別養護老人ホーム
ケアポ



対策実施⑤ 歯科衛生士による指導

対策後

月1回、歯科衛生士よりケア方法や適切なグッズについて指導を受ける事で、個々の口腔ケア方法を理解できた



適切なグッズを使用できるようになった



義歯ブラシ
を追加した

業務フロー追加

訪問歯科診療
(毎週火・金)
am,pm

歯科衛生士によるケア指導

口腔ケア 計画

必要物品の購入

対策実施⑥ 口腔ケアグッズ一覧表

対策後

どのご利用者に何をセットしたら良いか、一覧で分かる様になった

口腔ケアグッズ一覧表

氏名	義歯	歯ブラシ種類							
		入れ歯洗浄ブラシ	歯ブラシ	クルリーナ	吸引クルリーナ	柔らかい歯ブラシ	一本ブラシ	舌ブラシ	モアブラシ
自立						○			
	あり	○	○						
	あり								
	あり								
4名									
二重全脱									
	無し								
	あり					○			
	あり	あり	○	○					
	無し								
	あり	あり	○	○					
5名									
全全脱									
	無し			○			○	○	
	無し			○		○			
	無し		○	○					
3名									

〇

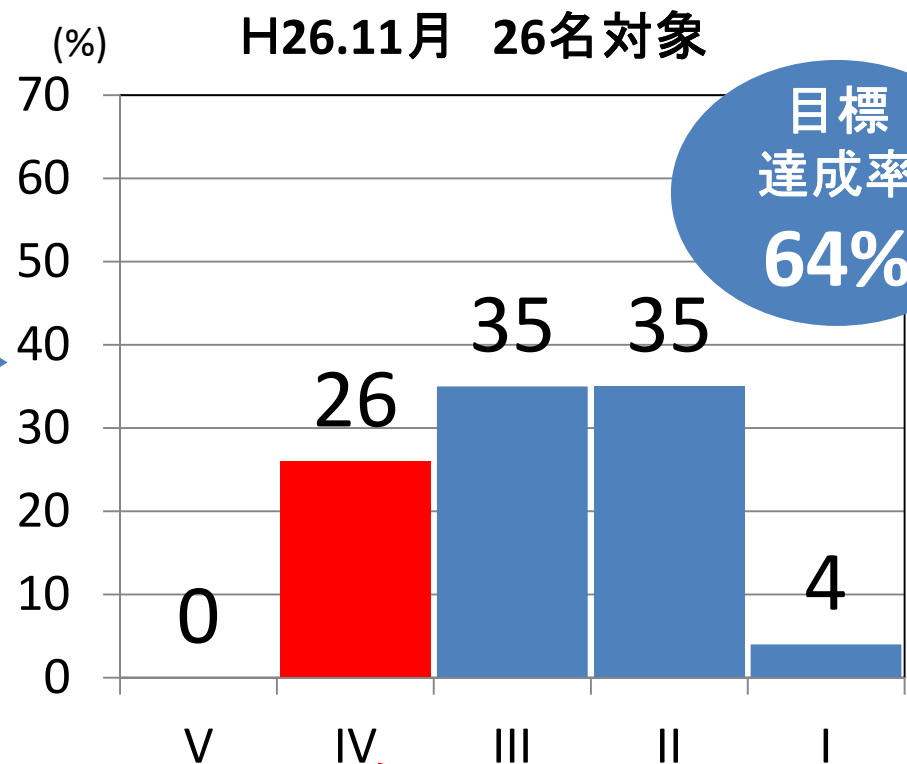
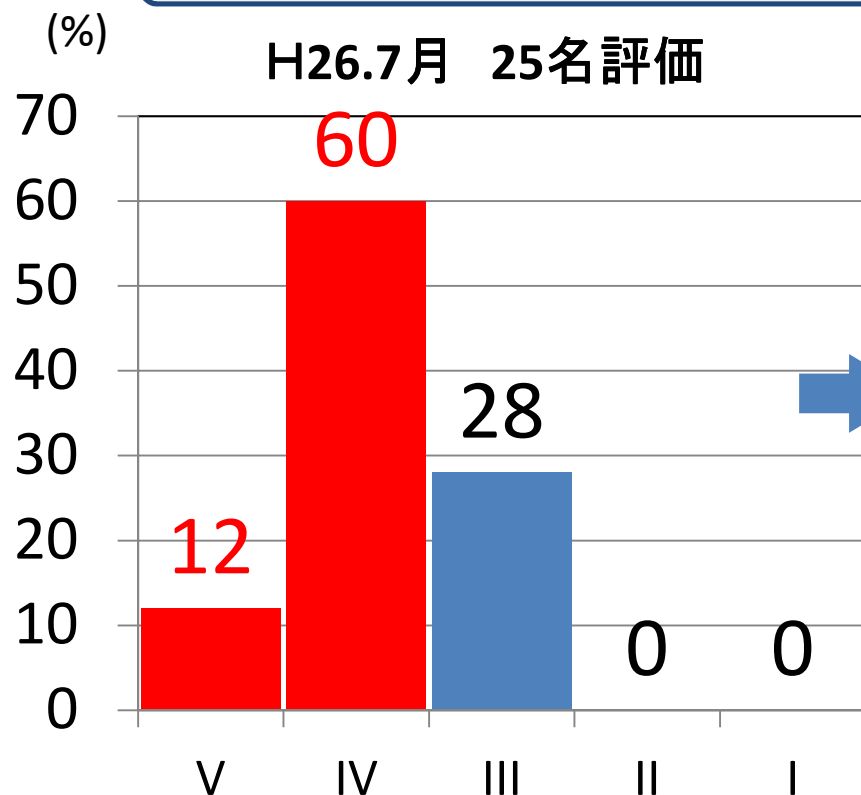
〇

〇

中間点検 H26.11 歯科医師による評価

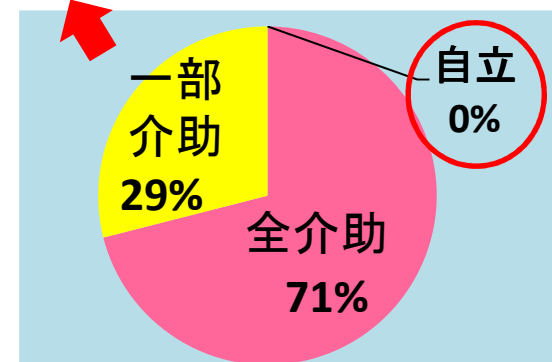


V (とても汚い)・IV (汚い)は72%から26%に減った



目標
達成率
64%

V とても汚い → I 綺麗



対策実施⑦（対策追加）

口が開いて頂けず、十分に
介助ができない



追加① 開口グッズの
使用



指ガード

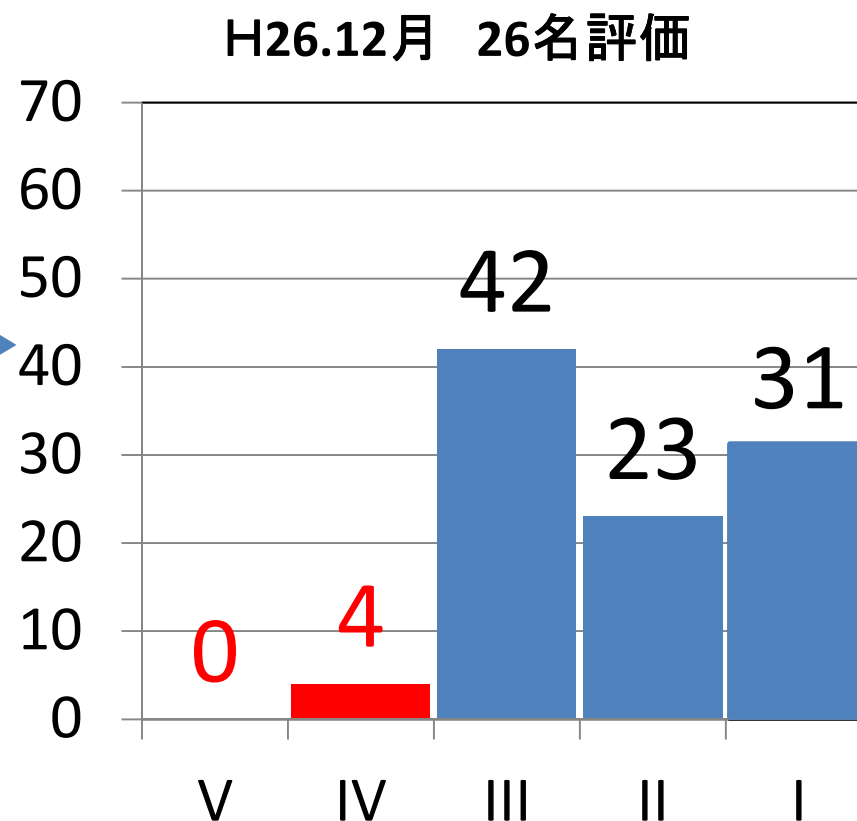
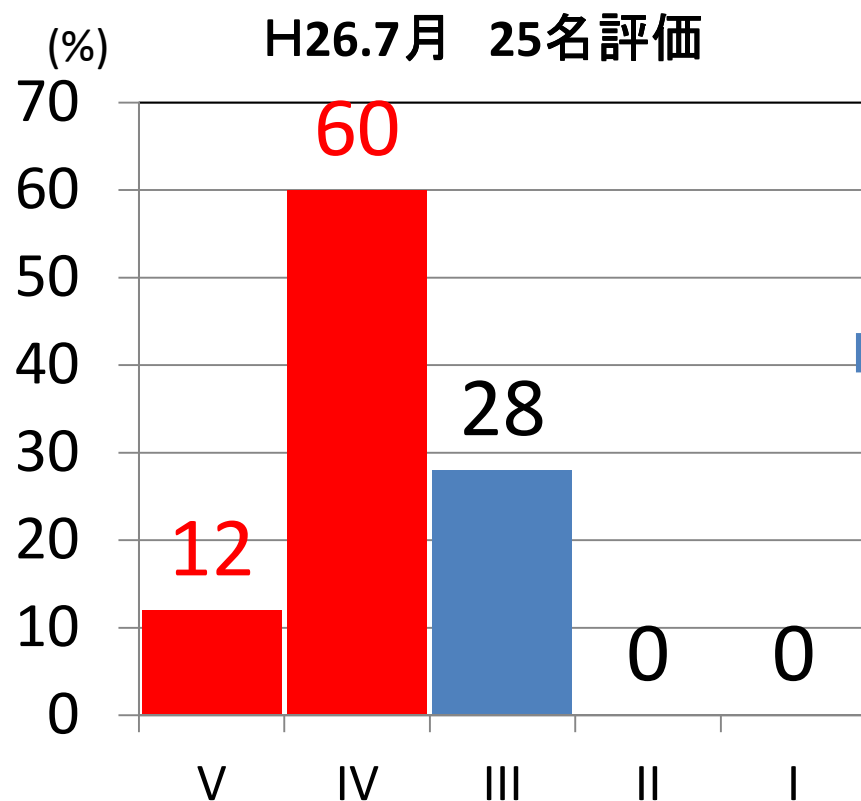
勉強会に参加できていない
職員がいた（遅番・夜勤者）



追加② 口腔ケア推進士が
職員に個別指導をした



V (とても汚い)・IV (汚い)は72%から4%に減った



V とても汚い



I 綺麗

目標達成率

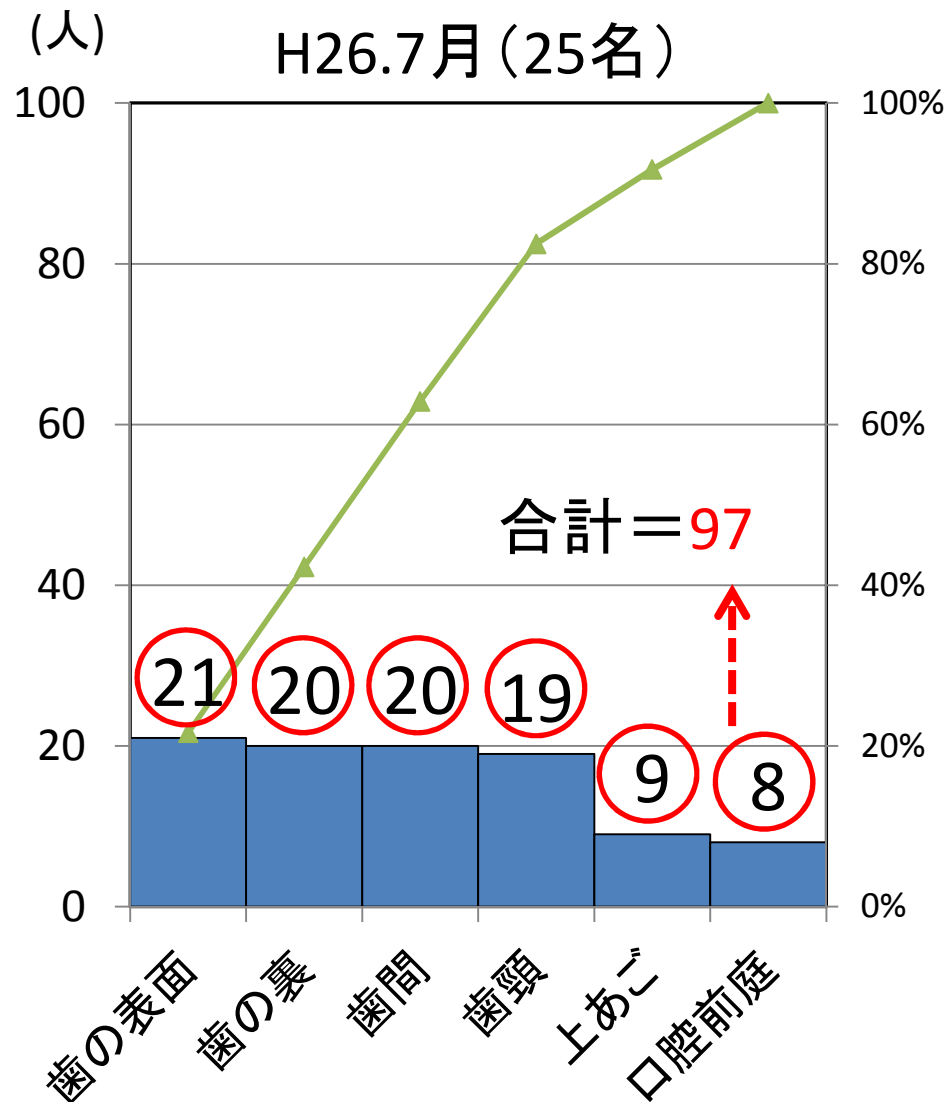
94%

有形効果① 磨き残しがあると指摘された部位



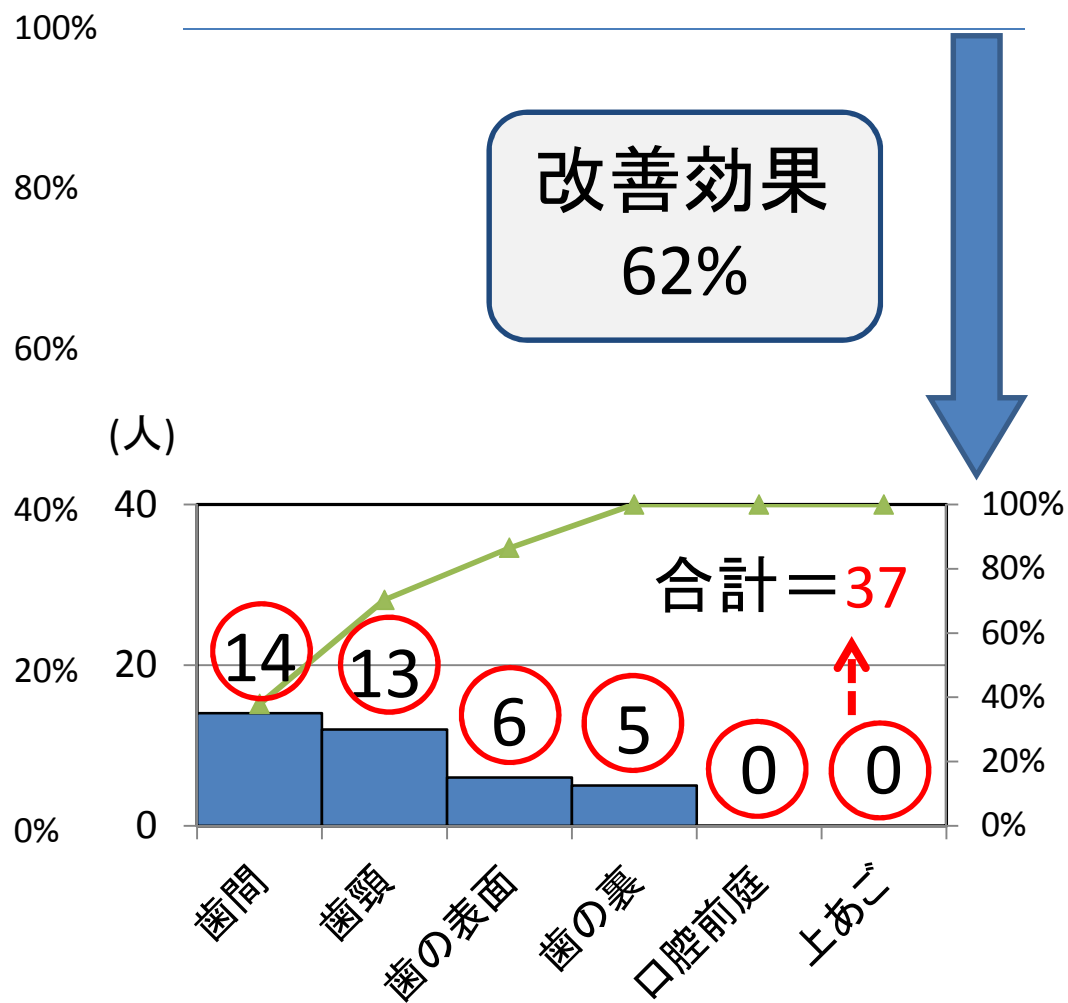
対策前

H26.7月(25名)



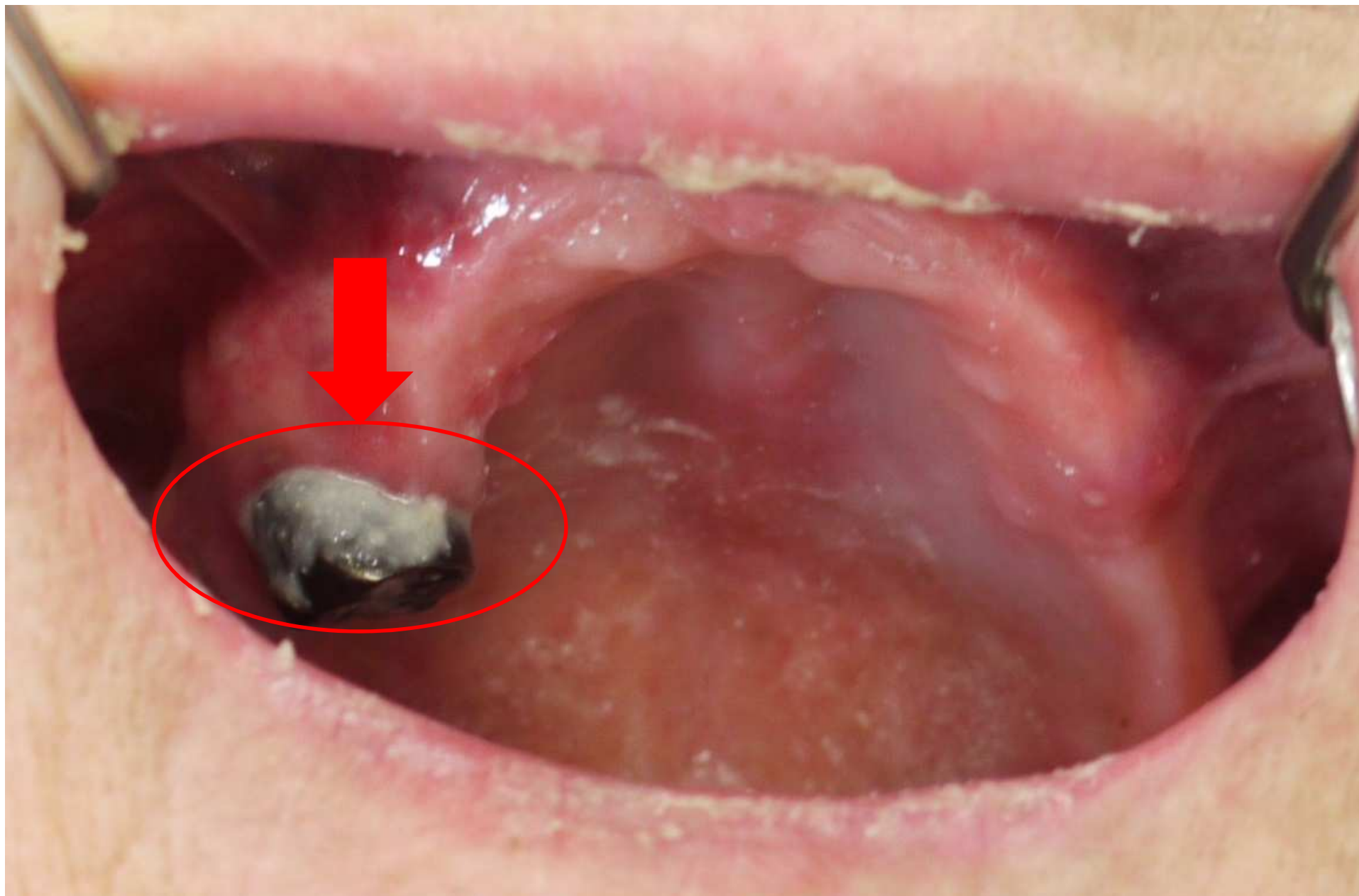
対策後

H26.12月(26名)



汚れ(食物残渣・歯垢・痰汚れ)が付着していると指摘を受けた人数(%)

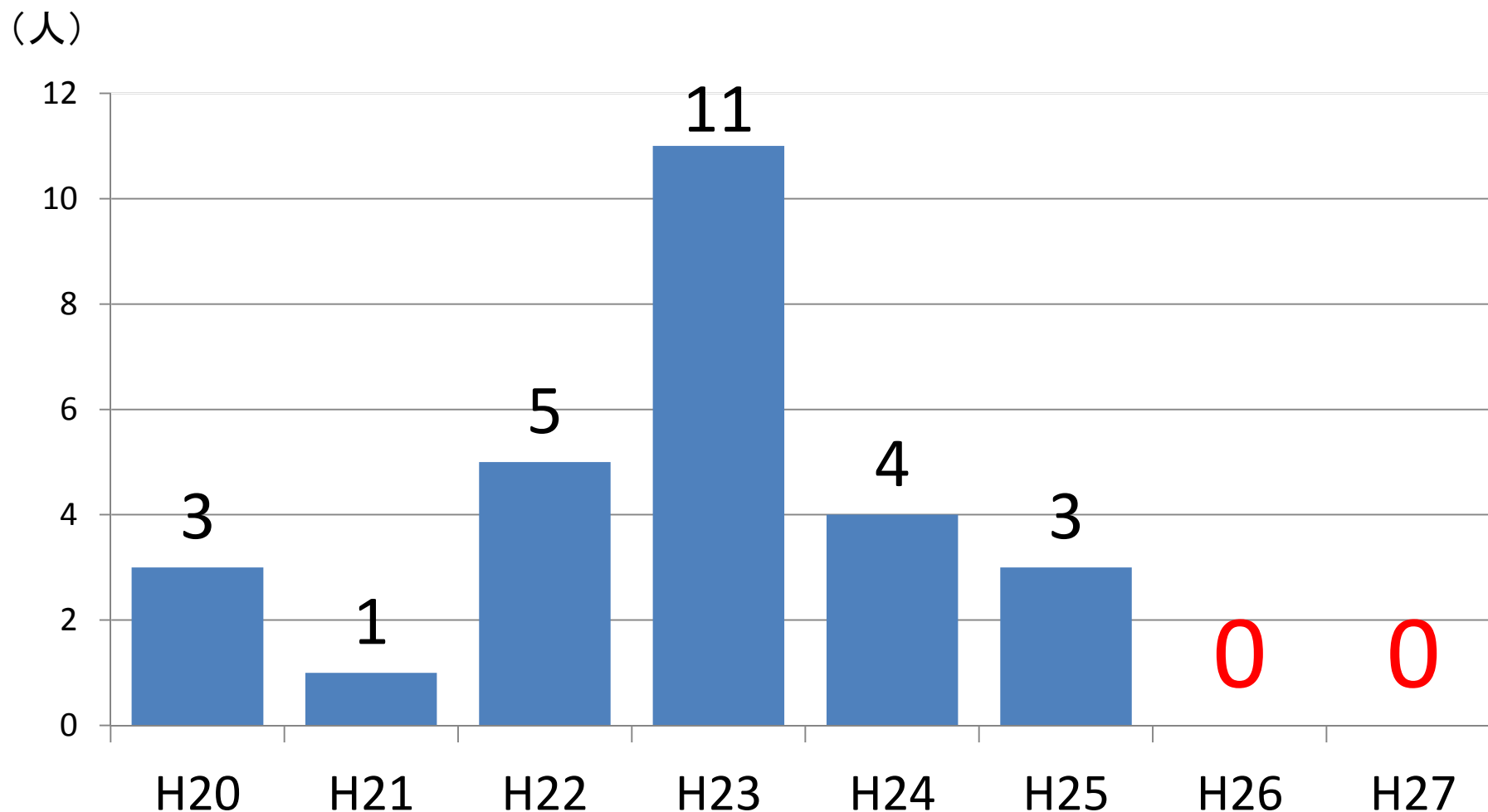
口腔ケア実施前



有形効果②

活動期間中 誤嚥性肺炎にかかった方は**0**名であった

過去8年間 誤嚥性肺炎(疑い含む)と診断された人数



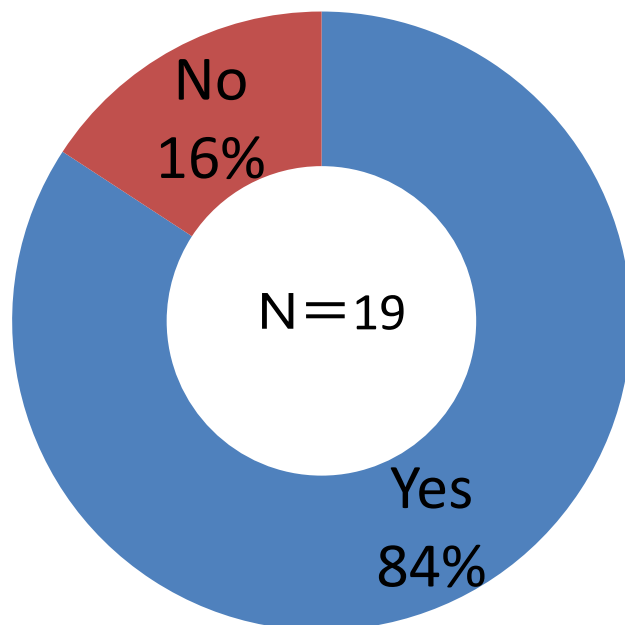
無形効果①



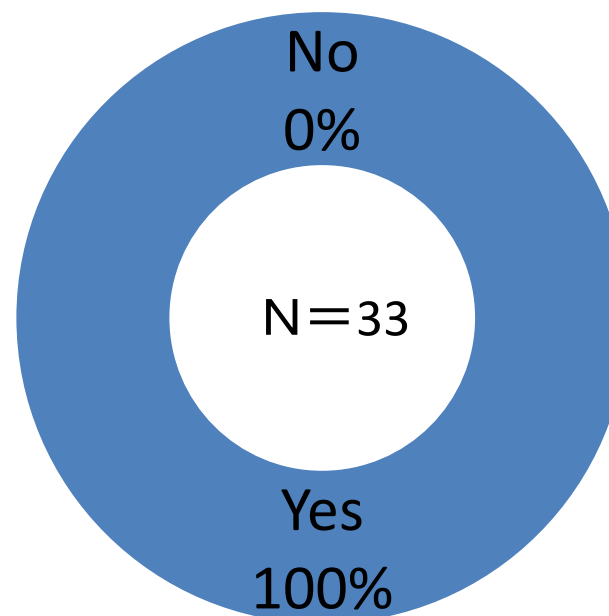
職員・ご利用者共に口腔ケアに対しての意識が高まった

Q: 取組前と比べて口腔ケアの意識が高まりましたか？

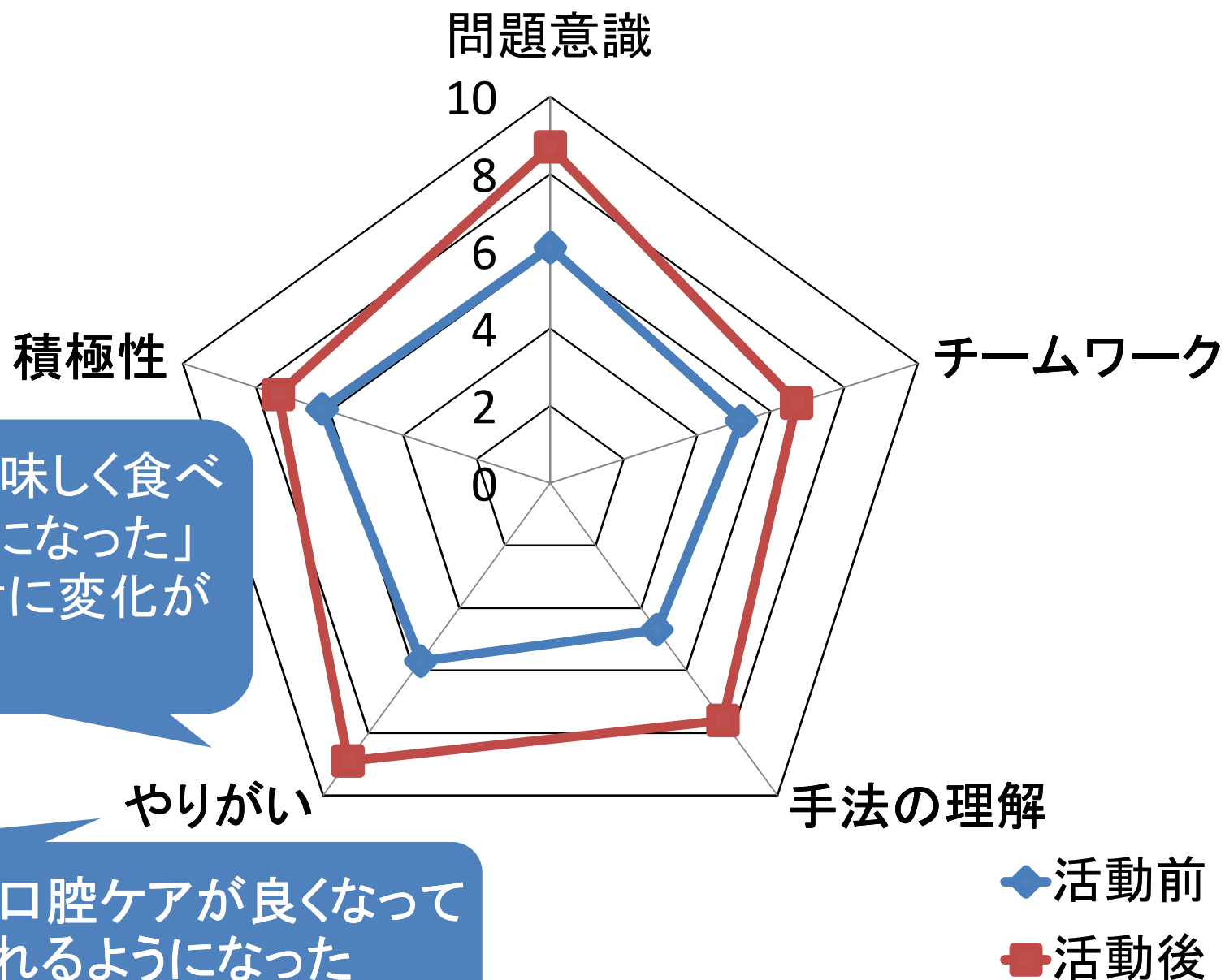
～【自立】ご利用者～



～職員～



無形効果②



波及効果①

ご利用者自身も正しく磨く方法を習得でき、自立支援につながった

職員が資格を取得する等、スキルアップにつながった

オールジャパンケアコンテスト(口腔ケア部門)にて準優勝



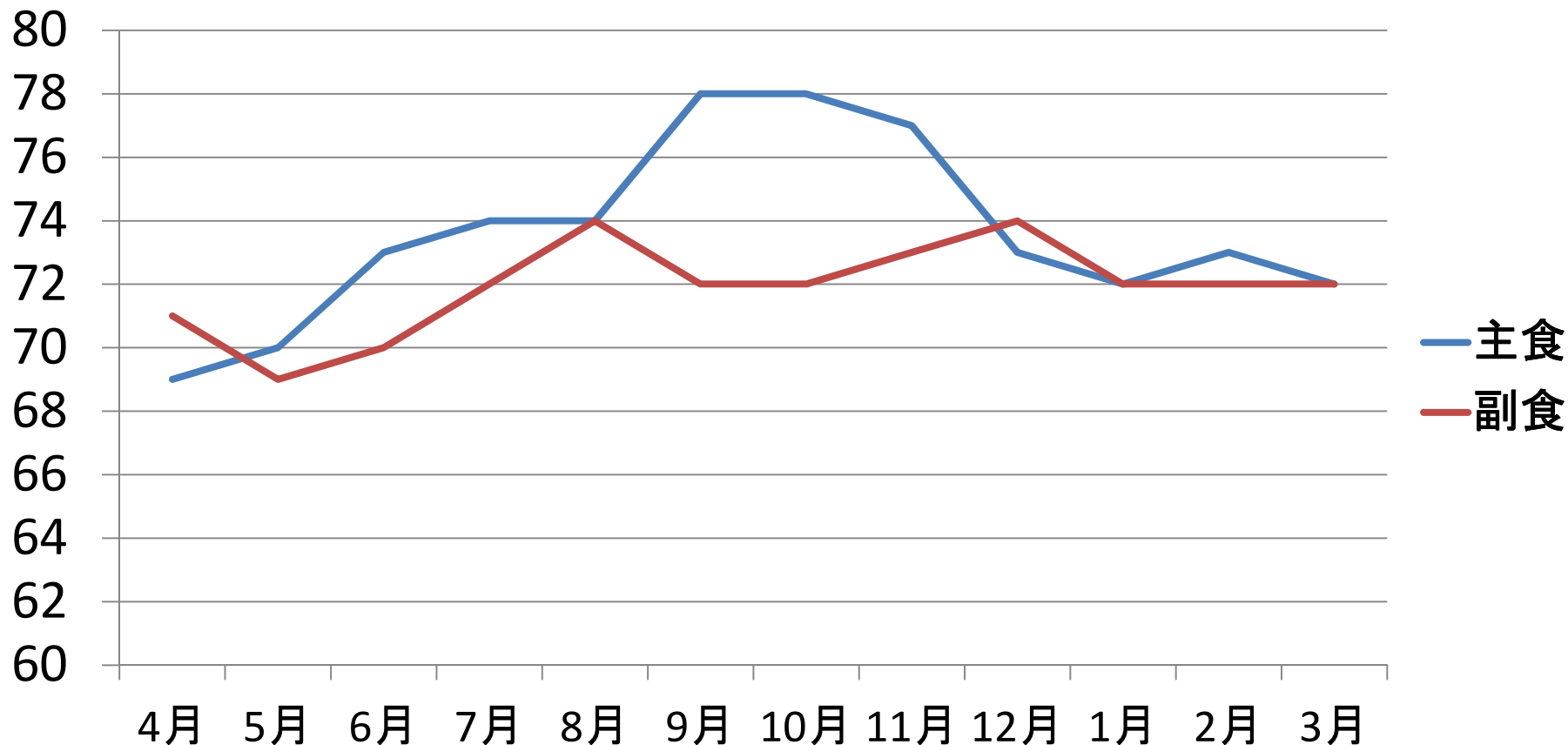
介護の技術を競うコンテスト
口腔ケア部門で準優勝しました



波及効果② 食事形態の維持



平成26年度 常食喫食率の推移



活動を開始してから、主食・副食共に常食を召し上がっている
ご利用者の割合は70%以上であり、維持できている

歯止めと標準化

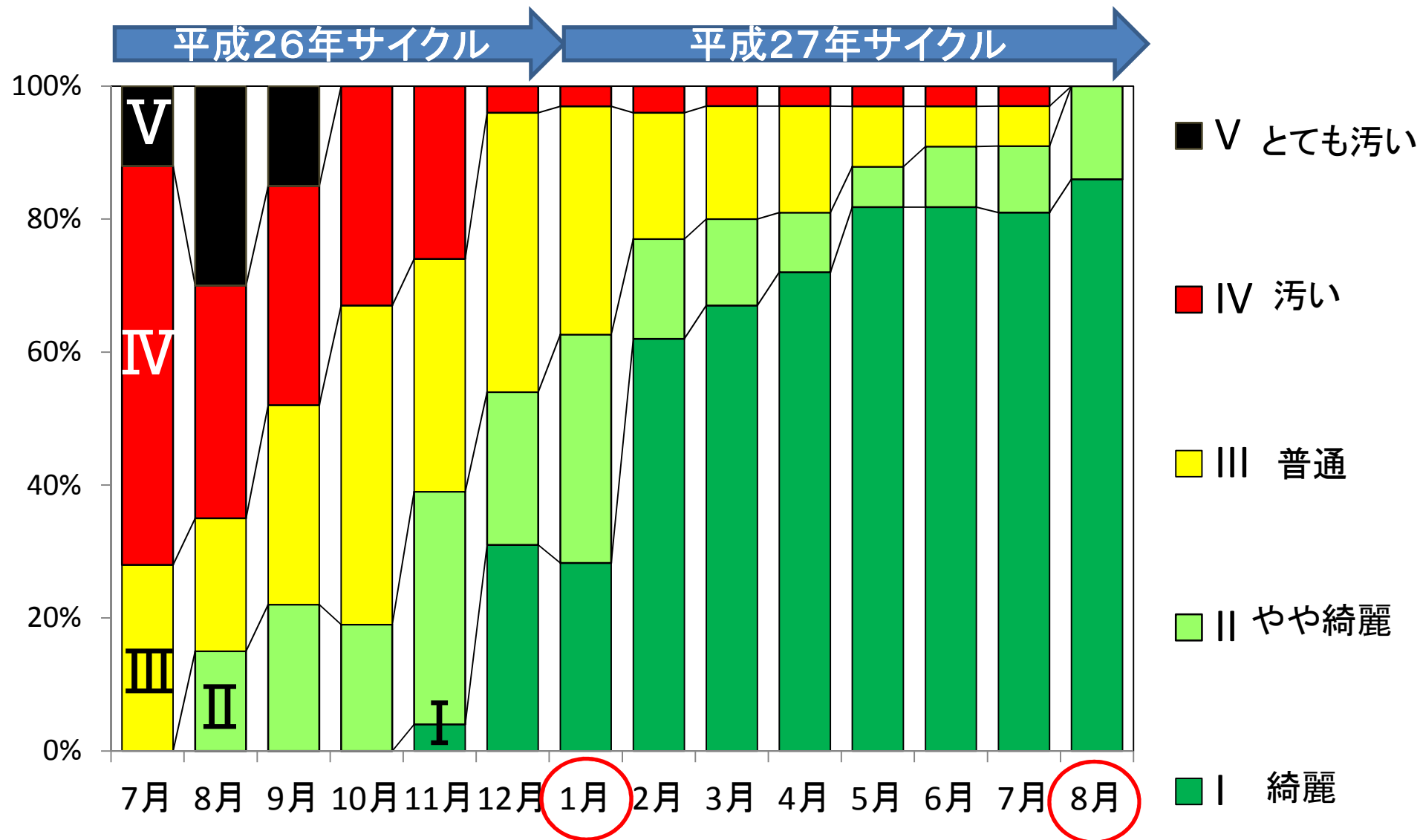


なぜ (目的)	何を (項目)	誰が (担当)	どこで (場所)	どのように (方法)	いつ (期間)
標準化	口腔ケア マニュアル	口腔ケア 委員	フロア	見直しをする	第4木 曜日
	口腔ケア グッズ一覧表	口腔ケア 委員	パントリー	更新する	変更 時
教育訓練	口腔ケア方法	歯科 衛生士	訪問診療 時	職員・ご利用者に 指導 (グッズの指導)	月1回
	知識・技術を 忘れない為に	歯科 医師	会議室	勉強会を開催	年1回
維持管理	グッズ	口腔ケア 委員	各フロア	交換	月1回
実施状況 のチェック	口腔ケア評価	歯科 医師	訪問診療 時	評価表を用いて チェックする	月1回
		口腔ケア 委員	会議室	評価表の振り返り を行う	月1回

歯止め確認



歯科医師による口腔ケア評価



反省と今後の課題



	手順	良かった点	悪かった点	今後の進め方
P	テーマの選定	看護や歯科医師と連携を図れた	なし	方針にそって迅速に方向性を決める
	現状の把握と目標の設定	きちんと磨けていない事が数値化できた	何を目標にするのかを決めるまでに時間がかかった	今後も悪さ加減が分かる様にデータをとっていく
	活動計画作成	職員それぞれの役割が明確になった	少し遅れ気味になった	今後もメンバーと連携を図り、進めていく
D	要因の解析	重要要因を一つ一つ検証する事で、真の要因を追求できた	フローチャートを作成するのに時間がかかった	経験を活かしてより深く解析できるようにする
C	対策の検討と実施	ご利用者、職員に勉強会が出来た	なし	歯科医師と連携をしながら、ケアの徹底をしていく
	効果の確認	客観的指標によって評価ができた	全ご利用者を対象に評価できていなかった	全ご利用者が対象に評価できるようにしていく
A	標準化と管理の定着	口腔ケアの質が上がったマニュアルが出来た事により標準化できた	なし	今後もケアの質が維持できるように、マニュアルの見直し等を行う

ご清聴ありがとうございました



私たちは笑顔でビジョンを
達成していきます!



参考文献/ 米山武義ら:介護高齢者に対する口腔衛生の誤嚥性肺炎予防効果に関する研究. 日本医学会誌, 2001

米山武義「後期高齢者医療における歯科医療の果たすべき役割」